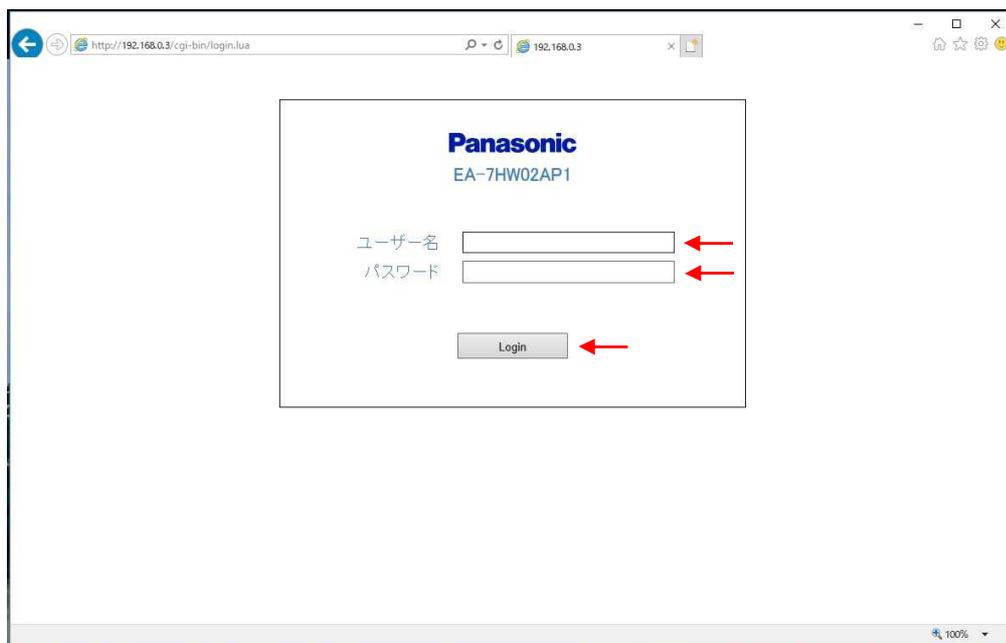


EA-7HW02AP1  
WEBコンソール  
画面説明資料

2018/12 v1.0

# ログイン



## ユーザー名

Webコンソールへログインするユーザー名を入力する。初期値はrootです。ログイン後、変更することができます。

## パスワード

Webコンソールへログインするパスワードを入力する。初期値はrootです。ログイン後、変更することができます。

## Login

ユーザー名、パスワード入力後”Login”をクリックします。装置に設定されたユーザー名、パスワードでログイン可能です。

**注意:ご使用時、ユーザー名およびパスワードは必ず変更してください**

# メイン画面



## 装置再起動

装置を再起動します。確認メッセージが表示されるのでOKをクリックすると再起動します。Webコンソールは切断されますので再度ログインが必要です。

## 適用

設定内容を装置に適用します。設定変更を行うとオレンジ色に変化します。適用中はオレンジ色が点滅します。“適用しました”のメッセージが表示されると適用完了となります。再起動すると設定は消えてしまいますので“保存”を実施してください。

**注意: オレンジ色の状態は変更内容が装置に適用されていない項目があることを示しています**

## 保存

設定内容を装置に保存します。設定変更を行うとオレンジ色に変化します。保存中はオレンジ色で点滅します。“保存しました”のメッセージが表示されると保存完了となります。電源OFFにしても設定が保持されます。

**注意: オレンジ色の状態は変更内容が装置に保存されていない項目があることを示しています**

## 更新

画面を最新の状態に更新します。

## 印刷

表示中の画面を印刷します。

## サイトマップ

Webコンソールのメニュー一覧が表示されます。

## ログアウト

Webコンソールからログアウトします。ログイン画面に戻ります。

## 簡易設定

必要最低限の設定にてWiFiを使用するための設定項目のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

#### 無線ネットワーク設定

SSID設定等無線関連の設定項目のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

#### ネットワーク設定

PPP、L2TP、Ipsec等ネットワーク関連の設定項目のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

#### アクセス設定

フィルター設定、TOS設定関連の設定項目のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

#### システム設定

装置設定、ファイル設定、監視設定(SNMP等)の設定項目のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

#### 状態

装置情報、装置警報情報、無線情報等の装置状態のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

#### 保守

ユーザー設定、ログ表示等の保守関連のメニューを表示します。各項目の説明は後述します。

#### 製品品番

接続しているアクセスポイントの製品品番を表示します

#### 装置時刻

装置に設定されている時刻を表示します

#### 製品シリアル番号

接続しているアクセスポイントの製品シリアル番号を表示します

#### 自装置MACアドレス

接続しているアクセスポイントのMACアドレスを表示します

#### ファームウェアバージョン

接続しているアクセスポイントのファームウェアバージョンを表示します。

ファームウェアは弊社HP (<https://sol.panasonic.biz/wifi/index.html>) にてダウンロード可能です

#### Panasonicロゴ

Panasonicロゴをクリックするとメイン画面が表示されます。どの画面からでもメイン画面に戻ります。

# 簡易設定(有線設定)



## IP動作モード

装置インターフェースのIPアドレスの割り当て方法を選択します(固定/自動)。簡易設定ではPPPは設定できません。装置設定用の装置インターフェースは固定を推奨します。

**注意:** 自動設定とすると割り振られたIPアドレスがわからなくなり、本装置にアクセスできなくなる場合があります。その場合、INIT\_SWによる初期化が必要となります(設定はすべて初期化されます)。

## IPアドレス

IP動作モード固定設定の場合にIPアドレスを設定します。

## サブネットマスク

IP動作モード固定設定の場合にサブネットマスクを設定します。

## ゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。

## DNS動作モード

DNSサーバのIPアドレスの割り当て方法を選択します(固定/自動/なし)。使用する場合、DNSサーバの用意、設定を行ってください。

## DNS1/DNS2

DNSサーバのIPアドレスを設定します。

## VLAN設定

装置インターフェースのVLANの有無の設定をします。有効にするとVLAN-IDに設定されたIDのTagが付与されます。

## VLAN-ID

VLANIDを設定します。

## CoS値

VLANのCoS値(優先度:0低~7高)を設定します。

### 設定

~ 設定後”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意:”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

補足:本設定は装置インターフェースNo.1に設定されます

# 簡易設定 (無線設定)

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▼簡易設定  
有線設定  
**無線設定**  
▶無線ネットワーク設定  
▶ネットワーク設定  
▶アクセス設定  
▶システム設定  
▶状態  
▶保守

## 簡易設定 (無線設定)

無線設定

SSID設定

SSID  (0~32文字) ←

アクセス制御

端末間通信  許可  禁止 ←

セキュリティ設定

セキュリティ種別  ←  
SSIDステルス  有効  無効 ←

※ セキュリティ種別で「WPA2エンタープライズ」を設定する場合「SSID設定」から設定ください。

2.4GHz帯設定

無線インターフェイス  有効  無効 ←  
チャンネル制御  固定  自動 ←  
使用チャンネル番号  ←  
最大周波数帯域幅  20MHz  40MHz ←

5GHz帯設定

無線インターフェイス  有効  無効 ←  
チャンネル制御  固定  自動 ←  
使用チャンネル番号  ←  
最大周波数帯域幅  20MHz  40MHz  80MHz ←

設定 ←

## SSID設定

### SSID

アクセスポイントの識別名。最大32文字の英数字を任意に設定可能。この名称が端末で見えます。

### アクセス制御

#### 端末間通信

本SSIDに接続した端末間で通信を許可するかしないかを設定します。

許可: 端末間の通信を許可します(データを透過します)

禁止: 端末間の通信を禁止します(データを廃棄します)

## セキュリティ設定

### セキュリティ種別

本SSIDのセキュリティ種別を選択します。簡易設定では暗号化なし/WEP(オープン認証)/WEP(共有鍵認証)/WPA2パーソナルから選択します。セキュリティ種別による個別の設定項目についてはSSID編集画面にて説明しています。

WPA2エンタープライズは簡易設定では選択できません(SSID設定 SSID編集にて設定)

### SSIDステルス

SSIDステルスを有効にするかしないかの設定。本設定を有効にすると で設定したSSIDが端末では見えなくなります。SSIDを知っている人だけが接続できるようになります。

有効: ビーコンにSSID情報を付与する(誰でもSSIDを知ることができるため誰でもアクセス可能)

無効: ビーコンにSSID情報を付与しない(SSIDを知らないとアクセスできない)

## 2.4GHz帯設定

### 無線インターフェイス

2.4GHz帯を使用するかしないかを設定します。

有効: 2.4GHz帯のチャンネルを使用して無線出力する

無効: 2.4GHz帯の無線出力を停止する

### チャンネル制御

2.4GHz帯の使用チャンネルの選択方法を設定します。

固定: の使用チャンネルで設定したチャンネルを使用する

自動: APが周囲の状況を検知して、自動的にチャンネルを選択する

### 使用チャンネル番号

のチャンネル制御が固定時に使用するチャンネル(1～13)を設定します

### 最大周波数帯域幅

2.4GHz帯の最大周波数帯域幅を20MHz/40MHzより選択する。実際の帯域幅は周囲の状況によりAPが自動的に判断します。

## 5GHz帯設定

### 無線インターフェイス

5GHz帯を使用するかしないかの設定

有効: 5GHz帯のチャンネルを使用して無線出力する

無効: 5GHz帯の無線出力を停止する

### チャンネル制御

5GHz帯の使用チャンネルの選択方法の設定

固定: の使用チャンネルで設定したチャンネルを使用する

自動: APが周囲の状況を検知して、自動的にチャンネルを選択する

### 使用チャンネル番号

のチャンネル制御が固定時に使用するチャンネル(36～64、100～140)を選択します。

### 最大周波数帯域幅

5GHz帯の最大周波数帯域幅を20MHz/40MHz/80MHzより選択します。

実際の帯域幅は周囲の状況によりAPが自動的に判断します。

### 設定

～ 設定後”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

**注意:** ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

# 装置インターフェイス設定

装置インターフェイス設定

No.	装置インターフェイス名	状態	動作モード	IPアドレス	サブネットマスク	VLAN-ID	
1	IF01	有効	固定設定	192.168.0.3	255.255.255.0	—	編集
2	IF02	無効	—	----	----	—	編集
3	IF03	無効	—	----	----	—	編集
4	IF04	無効	—	----	----	—	編集
5	IF05	有効	固定設定	0.0.0.0	0.0.0.0	5	編集
6	IF06	無効	—	----	----	—	編集
7	IF07	無効	—	----	----	—	編集
8	IF08	無効	—	----	----	—	編集
9	IF09	無効	—	----	----	—	編集
10	IF10	無効	—	----	----	—	編集
11	IF11	無効	—	----	----	—	編集
12	IF12	無効	—	----	----	—	編集
13	IF13	無効	—	----	----	—	編集
14	IF14	無効	—	----	----	—	編集
15	IF15	無効	—	----	----	—	編集
16	IF16	無効	—	----	----	—	編集

装置インターフェイスはAPから見てWAN側(インターネット)のインターフェイスおよびLAN側のインターフェイスの各種設定を行います。WAN側とLAN側は別の装置インターフェイスに設定を行い、別画面にてL2TP設定、Ipssec、ルーティング設定により紐づけを行います。

## No

装置インターフェイス番号を示します。最大16の装置インターフェイスの設定が可能です。

## 装置インターフェイス名

装置インターフェイスの名前を表示します。インターフェイス番号ごとに設定された内容が表示されます。

## 状態

装置インターフェイスの状態(有効/無効)を表示します。インターフェイス番号ごとに設定された内容が表示されます。

## 動作モード

装置インターフェイスの動作モード(固定/自動/PPP)を表示します。インターフェイス番号ごとに設定された内容が表示されます。

## IPアドレス

装置インターフェイスのIPアドレスを表示します。インターフェイス番号ごとに設定(もしくは取得)された内容が表示されます。

## サブネットマスク

装置インターフェイスのサブネットマスクを表示します。インターフェイス番号ごとに設定(もしくは取得)された内容が表示されます。

#### VLAN-ID

装置インターフェースのVLAN-IDを表示します。インターフェース番号ごとに設定された内容が表示されま  
す。

#### 編集

装置インターフェース番号ごとに、“編集”をクリックすると装置インターフェース編集画面に変わります。

# 装置インターフェイス編集

http://192.168.0.3/setting\_userhtml?ver=17021401 192.168.0.3

Panasonic 装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▶ 簡易設定  
▼ 無線ネットワーク設定  
    **装置インターフェイス設定**  
    SSID設定  
    SSID詳細設定  
    無線詳細設定  
    Authenticationサーバー設定  
    Accountingサーバー設定  
    DNS設定  
    端末接続許可設定  
    回線設定  
    Web認証設定  
▶ ネットワーク設定  
▶ アクセス設定  
▶ システム設定  
▶ 状態  
▶ 保守

## 装置インターフェイス編集

装置インターフェイス名 IF01

装置インターフェイス設定

インターフェイス  有効  無効  
装置インターフェイス名 IF01 (0~16文字)

装置インターフェイス状態

IP動作モード 固定設定  
IPアドレス 192.168.0.3  
サブネットマスク 255.255.255.0  
IP自動設定 有効  
DNS動作モード 固定  
DNS1 0.0.0.0  
DNS2 0.0.0.0

IP動作モード  固定設定 (StaticIP)  自動設定 (DHCP)  PPP  設定なし

IPアドレス 192.168.0.3  
サブネットマスク 255.255.255.0

PPP設定

ユーザー名 (0~64文字)  
パスワード (0~64文字)  
 入力確認

IP自動設定

IP自動設定  有効  無効

DNS動作モード (?)  固定設定  自動設定  設定なし

DNS1 0.0.0.0  
DNS2 0.0.0.0

VLAN設定  有効  無効

VLAN-ID 1 (0~4095)  
CoS値 0 (0~7)

転送先設定

イーサネット  有効  無効  
L2TPトンネル1  
L2TPトンネル2  
L2TPトンネル3  
L2TPトンネル4

IGMPスヌーピング設定

IGMPスヌーピング  有効  無効

DHCPサーバー設定  有効  無効

割当開始IPアドレス 0.0.0.0  
割当個数 2048 (1~2048)  
リース期間 60 分 (10~1440)  
ゲートウェイ  
DNS1 0.0.0.0  
DNS2 0.0.0.0

DHCPリレー設定  有効  無効  
サーバーIPアドレス 0.0.0.0

IPマスカレード設定

IPマスカレード  有効  無効

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦



#### 装置インターフェース名

本画面の設定を行う装置インターフェース名を選択します。 で設定した装置インターフェース名が表示されます。

装置インターフェース設定画面に戻らずにここで切り替えが可能です。

#### 装置インターフェース設定

##### インターフェース

装置インターフェースの有効/無効を設定します。

##### 装置インターフェース名

装置インターフェースの名称を任意に設定できます。

##### 装置インターフェース状態

本装置インターフェースの現在の設定状態を表示します。

#### IP動作モード

装置インターフェースの動作モードを固定/自動/PPPから選択します。

装置設定用の装置インターフェースは固定を推奨します。

##### IPアドレス

IP動作モード”固定設定”の場合にIPアドレスを設定します。

##### サブネットマスク

IP動作モード”固定設定”の場合にサブネットマスクを設定します。

##### ユーザー名

IP動作モード”PPP”の場合にユーザー名を設定します。ユーザー名はインターネットサービスプロバイダより発行されたものを設定します。

##### パスワード

IP動作モード”PPP”の場合にパスワードを設定します。パスワードはインターネットサービスプロバイダより発行されたものを設定します。

#### IP自動設定

パナソニックESネットワークスの設計支援ツール(ZEQUO assist Plus)によるIPアドレスの設定機能の有効無効を設定します。

#### DNS動作モード

DNSサーバのIPアドレスの割り当て方法を選択します。(固定/自動/なし)

使用する場合、DNSサーバの用意、設定を行ってください。ネットワーク上の指定したDNSサーバにアクセスし、ドメイン名解決を行うことができます。

##### DNS1/2

DNSサーバのIPアドレスを設定します。

#### VLAN設定

VLANの有無の設定をします。有効にするとVLAN-IDに設定されたIDのTagが付与されます。

VLAN-ID  
VLANIDを設定します。

CoS値  
VLANのCoS値(優先度:0低~7高)を設定します。

転送先設定  
イーサネット  
イーサネットへのパケット転送の有効/無効を設定します。

L2TPトンネル1~4  
L2TP使用時、使用するトンネル番号のセッション番号(1~16)を設定します。L2TP設定には別途"PPP設定(装置インターフェイス設定)"および"L2TP設定(ネットワーク設定 L2TP設定)"が必要です。

IGMPスヌーピング  
無線端末から受信したIGMPパケットをスヌーピングし、学習したマルチキャストグループに属する無線端末が存在するSSIDのみに転送する事が出来る設定をします。

DHCPサーバー設定  
APを端末のDHCPサーバーとして使用する/しないの設定をします。有効にすると以降の設定に従いIPアドレスが端末へ割り振られます。

割り当て開始アドレス  
割り当てるIPアドレスの先頭アドレスを設定します。設定するアドレスは本装置インターフェースのIPアドレスと同一ネットワーク内としてください。

①割り当て個数  
割り当てるIPアドレスの個数を設定します。設定する個数は本装置インターフェースのIPアドレスと同一ネットワーク内としてください。

②リース期間  
IPアドレスを割り当てる期間(10~1440分)を設定します。リース期間が経過すると端末は切断されます(再認証され接続されます)。

③ゲートウェイ  
ゲートウェイのIPアドレスを設定します。

④DNS1/2  
DNSサーバのIPアドレスを設定します。

⑤DHCPリレー設定  
DHCPリレーの有効/無効を設定します。DHCPサーバが同一サブネットではない場合に使用します。有効時、DHCPクライアントから受信したブロードキャストをユニキャストに変換して⑥で設定されたDHCPサーバに転送します。

⑥サーバーIPアドレス  
DHCPリレー有効時のDHCPサーバのIPアドレスを設定します。

⑦IPマスカレード  
IPマスカレードの有効/無効を設定します。

⑧MSSクランプ動作モード  
Maximum Segment Size(受信可能なセグメントサイズの最大値)の動作モードを設定します。

⑨MSS値  
Maximum Segment Size(受信可能なセグメントサイズの最大値)を設定します。

### ⑩設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意:”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

# SSID設定

SSID設定

No.	SSID名	SSID	2.4GHz	5GHz	装置インターフェイス名	編集
1	test2.4G	2.4G_test	有効	有効	IF01	編集
2	SSID02		無効	無効		編集
3	SSID03		無効	無効		編集
4	SSID04		無効	無効		編集
5	SSID05		無効	無効		編集
6	SSID06		無効	無効		編集
7	SSID07		無効	無効		編集
8	SSID08		無効	無効		編集
9	test5G	5G_test	有効	有効	IF01	編集
10	SSID10		無効	無効		編集
11	SSID11		無効	無効		編集
12	SSID12		無効	無効		編集
13	SSID13		無効	無効		編集
14	SSID14		無効	無効		編集
15	SSID15		無効	無効		編集
16	SSID16		無効	無効		編集

## No

SSIDの番号を表示します。最大16個のSSIDを設定することが可能です。

## SSID名

装置内でのSSIDの名称を表示します。装置内部で設定に使用する名称であり、無線上に送出するビーコンにのせるSSIDとは異なります。

## SSID

無線上に送出するビーコンにのせるSSIDを表示します。

## 2.4GHz

SSIDが2.4GHz帯で有効か無効かを示します。

## 5GHz

SSIDが5GHz帯で有効か無効かを示します。

## 装置インターフェイス名

SSIDが紐づけされている装置インターフェイス名を表示します。

## 編集

SSIDごとに「編集」をクリックするとSSID編集画面に変わります。

# SSID編集

http://192.168.0.3/setting\_user.html?ver=17021401 192.168.0.3

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

## Panasonic

- ▶ 簡易設定
- ▼ 無線ネットワーク設定
  - 装置インターフェイス設定
    - SSID設定**
    - SSID詳細設定
    - 無線詳細設定
    - Authenticationサーバー設定
    - Accountingサーバー設定
    - DNS設定
    - 端末接続許可設定
    - 回線設定
    - Web認証設定
  - ▶ ネットワーク設定
  - ▶ アクセス設定
  - ▶ システム設定
  - ▶ 状態
  - ▶ 保守

### SSID編集

SSID名 test2.4G

SSID設定

SSID名	test2.4G	(0~16文字)
SSID	2.4G_test	(0~32文字)

ブリッジインターフェイス設定

装置インターフェイス名 IF01

アクセス制御

端末間通信	<input type="radio"/> 許可 <input checked="" type="radio"/> 禁止
自装置アクセス	<input type="radio"/> 許可 <input checked="" type="radio"/> 禁止
最大端末接続台数	64 (1~127)
最低接続保障台数	0 (0~127)
端末接続監視時間	600 秒 (5~36000)

無線インターフェイス設定

2.4GHz帯  有効  無効

5GHz帯  有効  無効

SSID詳細設定

セキュリティ設定

セキュリティ種別 WPA2/パーソナル

PSK or WEP キー .....  入力確認

PMF  有効  無効

MAC認証  有効  無効

SSIDステルス  有効  無効

IEEE802.1X設定

再認証  有効  無効

再認証周期 3600 秒 (60~86400)

Authentication/Accountingサーバー状態

Authenticationサーバー情報

無線周波数	サーバー番号	現用サーバー	サーバー切り替え時刻
2.4GHz	1	1	—
5GHz	1	1	—

Authentication/Accountingサーバー設定

Authenticationサーバー番号 1

NAS-Identifier (0~253文字)

NAS-IP-Address 0.0.0.0

Accounting  有効  無効

Accountingサーバー番号 1

戻る 設定

100%

## SSID名

本画面の設定を行うSSID名を選択します。 で設定したSSID名が表示されます。SSID設定画面に戻らずにここで切り替えが可能です。

## SSID設定

### SSID名

装置内でのSSIDの名称を設定します。装置内部で設定に使用する名称であり、無線上に送出するビーコンにのせるSSIDとは異なります。

### SSID

無線上に送出するビーコンにのせるSSIDを設定します。

## ブリッジインターフェース設定

### 装置インターフェース名

本SSIDを紐づけする装置インターフェース名を選択します。本SSID(無線)と装置インターフェース設定画面で設定したインターフェース(Ethernet)のIPアドレスの紐づけします。APIはこの設定に従ってIEEE802.11フレーム(無線データ) Ethernetフレーム(有線データ)の変換を行います。

## アクセス制御

### 端末間通信

本SSIDに接続している端末同士の間で通信を許可するかどうかを設定します。

許可: 端末間宛のフレームを透過します

禁止: 端末間宛のフレームを廃棄します

同じSSIDでも他のAPに接続している端末宛の場合、フレームは全て透過します

### 自装置アクセス

本SSIDに接続した端末からAPの監視インターフェースへのアクセスを許可/禁止を設定します。

### 最大端末接続台数

本SSIDに接続可能な端末の最大数を設定します。

APとしての端末の最大接続数は2.4GHz帯で127台、5GHz帯で127台です。全SSIDの総数で127台です。

### 最低接続保証台数

本SSIDに接続を保証する端末の最低数を設定します。

APとしての端末の最大接続数は2.4GHz帯で127台、5GHz帯で127台です。全SSIDの総数で127台です。

### 端末接続監視時間

接続された端末の登録時間を設定します。端末からの送信が無い場合に、本設定時間まで接続状態が継続されます。

他のAPに接続されたことが通知されると切断します(登録解除)

## 無線インターフェース設定

### 2.4GHz帯

2.4GHz帯使用の有効/無効を選択します。有効にすると2.4GHz帯に本SSIDが出力されます。

SSIDステルス有効時は端末側では見えませんが、接続可能となります。

### 5GHz帯

5GHz帯使用の有効/無効を選択します。有効にすると5GHz帯に本SSIDが出力されます。

SSIDステルス有効時は端末側では見えませんが、接続可能となります。

## セキュリティ設定

### セキュリティ種別

SSIDのセキュリティ種別を選択します。暗号化なし/WEP(オープン認証)/WEP(共通鍵認証)/WEP(オープン認証 + 共通鍵認証)/WPA2パーソナル/WPA2エンタープライズから選択可能です。

暗号化なし: 無線データを暗号化せずに送受信します。接続の認証は行われません

WEP(オープン認証): WEP(RC4)による暗号化が行われますが、接続の認証は行われません

WEP(共通鍵認証): WEP(RC4)による暗号化および認証が行われます

WEP(オープン認証/共通鍵認証): 暗号化にWEP(RC4)を使用し、認証にはIEEE802.1X認証を使用する

WPA2パーソナル: 暗号化にCCMP(AES)を使用し、認証にはPSK認証を使用する

WPA2エンタープライズ: 暗号化にCCMP(AES)を使用し、認証にはIEEE802.1X認証を使用する

**WEPは脆弱性が確認されており、WPA2パーソナルもしくはWPA2エンタープライズを推奨します**

### WEPキー/PSK

WEPキーは任意の英数字(5文字または13文字)を設定してください。

PSKは任意の英数字(8文字以上63文字以内を設定してください)。

**WEP、PSKは端末側にも設定もしくは接続時の入力が必要となります**

### PMF

PMFの有効/無効を設定します。PMFはユーザデータだけでなく無線LANの管理フレームも暗号化する機能です。

**注意: 一部端末ではPMFを有効にするとAPに接続できない場合があります**

### MAC認証

本SSIDにてMAC認証を有効/無効に設定します。本設定有効時にAuthenticationサーバーに登録したMACアドレスの端末のみが接続可能となります。別途、本画面のAuthentication/Accountingサーバー設定にてAuthenticationサーバーの設定が必要です。

### SSIDステルス

SSIDステルスを有効にするかしないかの設定。本設定を有効にすると で設定したSSIDが端末では見えなくなります。SSIDを知っている人だけが接続できるようになります。

有効: ビーコンにSSID情報を付与する(誰でもSSIDを知ることができるため誰でもアクセス可能)

無効: ビーコンにSSID情報を付与しない(SSIDを知らないとアクセスできない)

## IEEE802.1X設定

### 再認証

IEEE802.1X認証の再認証の有効/無効を設定します。

### 再認証周期

IEEE802.1X認証の再認証の周期を設定します。

### Authentication/Accountingサーバー状態

本SSIDに設定されているAuthentication/Accountingサーバーの状態を表示します。

### Authentication/Accountingサーバー設定

#### Authenticationサーバー番号

使用するAuthentication(認証)サーバー番号を選択します。別途Authenticationサーバー設定画面にて、ここで指定した番号にAuthenticationサーバーの設定が必要です。

#### ①NAS-Identifier

Authenticationサーバーがクライアント(本装置)を認識するための名称(NAS-ID)を設定します。

Authenticationサーバー側に事前に登録が必要です。本設定もしくは②NAS-IP-Addressの設定が必要です。

#### ②NAS-IP-Address

Authenticationサーバーがクライアント(本装置)を認識するためのIPアドレスを設定します。Authenticationサーバー側に事前に登録が必要です。本設定もしくは①NAS-Identifierの設定が必要です。

⑳Accounting

Accounting(課金管理)サーバーの使用/未使用を設定します。

㉑Accountingサーバー番号

使用するAccountingサーバー番号を選択します。別途Accountingサーバー設定画面にて、ここで指定した番号にAccountingサーバーの設定が必要です。

㉒設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意:”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

# SSID詳細設定

192.168.0.3/setting\_user.html?ver=17021401 192.168.0.3

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

## Panasonic

- ▶ 簡易設定
- ▼ 無線ネットワーク設定
  - 装置インターフェイス設定
  - SSID設定
  - SSID詳細設定**
  - 無線詳細設定
  - Authenticationサーバー設定
  - Accountingサーバー設定
  - DNS設定
  - 端末接続許可設定
  - 回線設定
  - Web認証設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▶ アクセス設定
- ▶ システム設定
- ▶ 状態
- ▶ 保守

### SSID詳細設定

SSID名 test2.4G

#### 2.4GHz帯設定

無線モード選択

無線モード  802.11b  802.11b/g  802.11b/g/n

データレート

レガシー:最小値(?) 1M  
レガシー:最大値(?) 54M  
マルチキャスト auto

低品質端末制御  有効  無効

接続レベル -81 dBm (-100~0)  
切断レベル -87 dBm (-100~0)  
切断判定時間 1 秒 (1~600)  
再接続一時抑止時間 0 分 (0~60)

#### 5GHz帯設定

無線モード選択

無線モード  802.11a  802.11a/n  802.11a/n/ac

データレート

レガシー:最小値 6M  
レガシー:最大値 54M  
マルチキャスト auto

低品質端末制御  有効  無効

接続レベル -81 dBm (-100~0)  
切断レベル -87 dBm (-100~0)  
切断判定時間 1 秒 (1~600)  
再接続一時抑止時間 0 分 (0~60)

#### RADIUS属性設定

Location-Name (0~247文字)  
Service-Type 2 (0~65535)  
Session-Timeout  有効  無効

#### プロキシ-ARP設定

プロキシ-ARP  有効  無効  
プロキシ-ARPモード  未学習ARP透過  未学習ARP廃棄

#### マルチキャストエンハンス設定

エンハンスモード  エンハンスなし  ユニキャスト変換

#### 5GHz帯誘導制御設定

有効  無効

チャンネル利用率 80 % (0~100)  
RSSIレベル -65 dBm (-100~0)

※ チャンネル利用率とRSSIレベルは全SSID共通の設定となります。

#### 帯域制限設定

有効  無効

帯域制限値設定 866 Mbps

戻る 設定

## SSID名

設定を行うSSID名を選択します。SSID名はSSID編集にて設定したものが表示されます。

## 2.4GHz帯設定

### 無線モード選択

使用する無線LAN規格を選択します。通常802.11b/g/nを選択します。

### データレート

#### レガシー:最小値

データレートの最小値を選択します。11b時:1M/2M/5.5M/11M 11g時:6M/12M/24M

#### レガシー:最大値

データレートの最大値を選択します。11b時:1M/2M/5.5M/11M 11g時:  
6M/9M/12M/18M/24M/36M/48M/54M

### マルチキャスト

マルチキャストのレートを選択します。11b時:auto/1M/2M/5.5M/11M 11g時:  
auto/6M/9M/12M/18M/24M/36M/48M/54M

### 低品質端末制御

低品質端末制御機能の有効/無効を設定します。本機能を使用することでスムーズなハンドオーバー(隣のAPへの接続切り替え)を行うことができます。

### 接続レベル

端末を接続するAPでの受信レベルを設定します。本設定により十分な受信レベルの端末のみを接続することができます。

### 切断レベル

APに接続中の端末を切断するAPでの受信レベルを設定します。本設定により十分な受信レベルを満たさない端末を切断することができます。端末は切断されることにより、より強い受信レベルのAPへ再接続します。

**注意:切断レベルは接続レベルより低い値に設定してください(6dBm以上低くすることを推奨)。**

### 切断判定時間

端末からの受信レベルが切断レベル設定以下となってから切断するまでの判定時間を設定します。

### 再接続一次抑止時間

端末切断後、同じ端末が再接続しないように一時的に接続させない時間を設定します。

## 5GHz帯設定

### 無線モード選択

使用する無線LAN規格を選択します。通常802.11a/n/acを選択します。

### データレート

#### レガシー:最小値

データレートの最小値を選択します。11a時:6M/12M/24M

#### レガシー:最大値

データレートの最大値を選択します。11a時:6M/9M/12M/18M/24M/36M/48M/54M

### マルチキャスト

マルチキャストのレートを選択します。11a時:auto/6M/9M/12M/18M/24M/36M/48M/54M

### 低品質端末制御

低品質端末制御機能の有効/無効を設定します。本機能を使用することでスムーズなハンドオーバー(隣のAPへの接続切り替え)を行うことができます。

#### 接続レベル

端末を接続するAPでの受信レベルを設定します。本設定により十分な受信レベルの端末のみを接続することができます。

#### 切断レベル

APに接続中の端末を切断するAPでの受信レベルを設定します。本設定により十分な受信レベルを満たさない端末を切断することができます。端末は切断されることにより、より強い受信レベルのAPへ再接続します。

**注意: 切断レベルは接続レベルより低い値に設定してください(6dBm以上低くすることを推奨)。**

#### 切断判定時間

端末からの受信レベルが切断レベル設定以下となってから切断するまでの判定時間を設定します。

#### 再接続一次抑止時間

端末切断後、同じ端末が再接続しないように一時的に接続させない時間を設定します。

#### RADIUS属性設定

##### Location-Name

RADIUSサーバー (Authenticationサーバー) へ通知するLocation-Nameを設定します。

##### ⑲Service-Type

RADIUSサーバー (Authenticationサーバー) へ通知するService-Typeを設定します。

##### ⑳Session-Timeout

RADIUSサーバー (Authenticationサーバー) から通知される属性設定 (Suppliant (無線端末) からの応答待ちタイムアウト時間・再認証時間) に従うかを設定します。

#### プロキシ-ARP設定

##### ㉑プロキシ-ARP

プロキシARPの有効/無効を設定します。同一サブネットのIPアドレスに対するARP要求に対し、本装置が自身のMACアドレスで代理応答します。サブネット内のホストが直接通信できない特殊なネットワークに接続されたインターフェースで使用します。

##### ㉒プロキシ-ARPモード

プロキシARP有効時の動作モードを選択します

##### ㉓マルチキャストエンハンスモード

全端末宛てのマルチキャストフレームを個々の無線端末宛のフレームに変換し、フレームロスを低減する機能の有効/無効を設定します。(フレームロスは低減されますが、最大スループットは低下しますのでご注意ください。)

##### ㉔5GHz帯誘導制御設定

2.4GHz/5GHz両方の周波数帯に対応した端末に対し、混在した2.4GHz帯の接続を拒否し、混雑の少ない5GHz帯へ誘導する機能の有効/無効を設定します。(注: 本機能は端末MACアドレス制限とは併用できません。)

##### ㉕チャンネル利用率

5GHz帯誘導制御設定が有効な場合に、混雑の有無を判断するチャンネル利用率閾値を設定します。

##### ㉖RSSIレベル

5GHz帯誘導制御設定が有効な場合に、5GHz帯で十分なRSSIレベルが得られ、誘導対象とするかどうかでの判定閾値を設定します。

##### ㉗帯域制限設定

このSSIDの最大スループットを制限する機能の有効/無効を設定します。

##### ㉘帯域制限値設定

帯域制限設定が有効な場合に、このSSIDの最大スループット値を設定します。

### ③設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意:”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

# 無線詳細設定 (2.4GHz帯)

無線詳細設定

使用周波数帯 2.4GHz ←

最大送信出力一覧 11b/g/n 11a/n 11ac

運用動作モード

無線インターフェイス  有効  無効 ←

ビーコン間隔 (?) 100 ミリ秒 (40~2000) ←

DTIM間隔 1 (1~255) ←

チャンネル制御

チャンネル制御モード  固定  自動 ←

使用チャンネル番号 1 ←

選択対象チャンネル番号 (?)  1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  11  12  13 ←

最大周波数帯域幅  20MHz  40MHz ←

送信出力設定

出力レベル (?) 22 dBm (1~22) ←

プロテクション

プロテクション動作  有効  無効 ←

ERPプロテクション動作 (?)  OFF  CTS-to-self  RTS/CTS ←

OBSSスキャン設定

OBSSスキャン動作  有効  無効 ←

設定 ←

**使用周波数帯**  
設定する周波数帯 (2.4GHz/5GHz) を選択します。ここでは2.4GHz帯について説明します。

**運用動作モード**  
**無線インターフェイス**  
使用周波数帯の有効/無効を設定します。使用する場合は有効に設定してください。

**ビーコン間隔**  
ビーコンの間隔を設定します。端末はビーコンにより利用できるチャンネルの情報、及びSSIDの情報を得ています。APからはSSIDの数のビーコンが送出されるため、SSIDの設定数によりビーコン間隔の最小値が制限されます。

**DTIM間隔**  
DTIMの間隔を設定します。端末の動作モードには「アクティブ・モード」と「パワー・セーブ・モード」の2種類があります。アクティブ・モードは送受信回路に常に電源が供給されている状態であり、パワー・セーブ・モードは間欠的に仮眠状態となり電力を節約するモードです。端末がパワー・セーブ・モードになると常にデータを受信できる状態ではないため、APは端末向けのデータやマルチキャスト/ブロードキャスト・パケットがある場合、ビーコンに含まれるTIM (Traffic Indication Message) を使ってデータがあることを通知し、無線クライアントが受信可能状態になってからデータを送信します。データがあることを通知するTIMをDTIM (Delivery Traffic Indication Message) と呼び、DTIMが含まれる周期はDTIM間隔で示されます。例えば、DTIM間隔が5ならば、ビーコン5個間隔でDTIMが送信されるという意味になります。

## チャンネル制御

### チャンネル制御モード

チャンネル制御モード(固定/自動)を選択します。固定設定時は”使用チャンネル番号”設定により選択されたチャンネルを使用します。自動設定時は”選択対象チャンネル番号”にて選択されているチャンネルから周囲状況によりAPが自動で選択します。

### 使用チャンネル番号

”チャンネル制御モード”固定時にAPが使用するチャンネルを設定します。APは指定されたチャンネルを使用します。

### 選択対象チャンネル番号

”チャンネル制御モード”自動時にAPが使用するチャンネルを選択設定します。APは選択されたチャンネルから周囲状況により選択します。2.4GHz帯で干渉せずに同時に使用できる最大チャンネル数は3です。複数のAPを近くに設置する場合はチャンネル1、6、11を選択してください。

### 最大周波数帯域幅

最大周波数帯域幅(20MHz/40MHz)を選択します。802.11n動作時に40MHzを選択すると、40MHz(2チャンネル分)の帯域を使用することができます。APは周囲状況により20MHz/40MHzの切り替えを自動で行います。

40MHzを保証するものではありません

### 送信出力設定(出力レベル)

送信出力レベルを設定します。無線モードにより最大送信出力レベルは異なります。画面上部の最大送信出力一覧をクリックすると確認できます。最大送信出力レベルを超える設定をした場合、最大送信出力レベルで出力されます。

他APへ干渉が発生している場合、送信出力レベルを調整することで干渉が緩和されることがあります

## プロテクション

### プロテクション動作

プロテクション動作の有効/無効を設定します。11bのWLAN端末はOFDM方式を解読できないため、11gのWLAN端末がデータ転送をしていることを認識することができずデータを伝送し始める結果、フレームの衝突が発生し、スループットが低下します。プロテクション動作により衝突を回避できます。ただし、RTS信号やCTS信号のやりとりが発生するため、スループットは低下することになります。

11bの端末の影響がない場合、無効としてください

### ERPプロテクション動作

プロテクション動作有効時の動作モードを選択します。

OFF: プロテクション機能は動作しません

CTS-to-self: 自分自身(AP)にCTSを送信し、他の端末にこれから送信することを通知することで衝突を回避する

RTS/CTS: 端末がアクセスポイントにあらかじめ通信することを通知(RTS)し、APから端末に通信の許可(CTS)を与えることで衝突を回避する

### OBSSスキャン設定(OBSSスキャン動作)

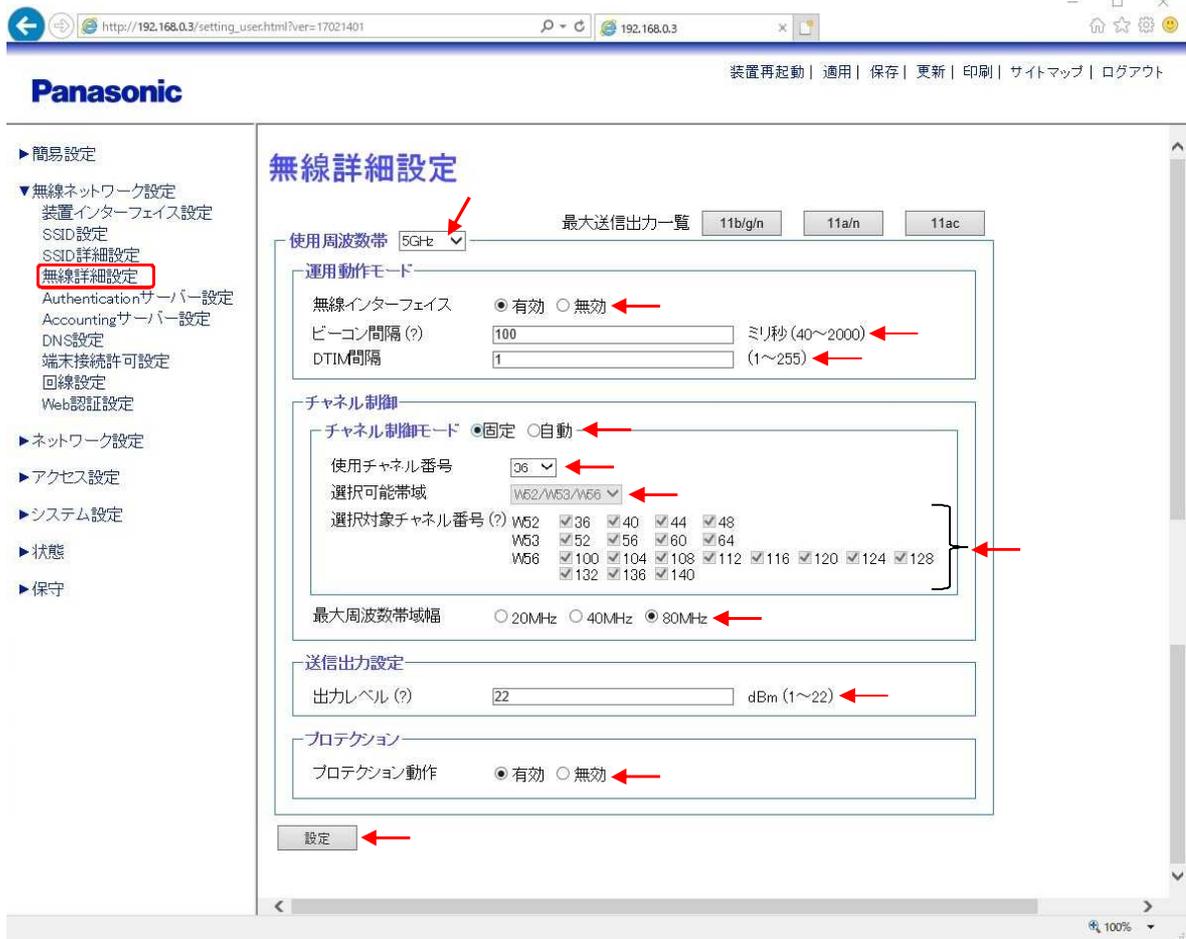
OBSSスキャン動作の有効/無効を設定します。OBSSスキャンは、APが40MHz帯域で動作している場合、定期的に周囲状況を検索します。周囲の802.11n規格に非対応の無線ネットワーク及び40MHz帯域を許容しない無線ネットワークを発見するために行われる。検出した場合、20MHz帯域に切り替えます。

## 設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

**注意:** ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場

# 無線詳細設定 (5GHz帯)



**使用周波数帯**  
設定する周波数帯 (2.4GHz/5GHz) を選択します。ここでは5GHz帯について説明します。

**運用動作モード**  
無線インターフェース  
使用周波数帯の有効/無効を設定します。使用する場合は有効に設定してください。

**ビーコン間隔**  
ビーコンの間隔を設定します。端末はビーコンにより利用できるチャンネルの情報、及びSSIDの情報を得ています。APからはSSIDの数のビーコンが送出されるため、SSIDの設定数によりビーコン間隔の最小値が制限されます。

**DTIM間隔**  
DTIMの間隔を設定する。端末の動作モードには「アクティブ・モード」と「パワー・セーブ・モード」の2種類があります。アクティブ・モードは送受信回路に常に電源が供給されている状態であり、パワー・セーブ・モードは間欠的に仮眠状態となり電力を節約するモードです。端末がパワー・セーブ・モードになると常にデータを受信できる状態ではないため、APは端末向けのデータやマルチキャスト/ブロードキャスト・パケットがある場合、ビーコンに含まれるTIM (Traffic Indication Message) を使ってデータがあることを通知し、無線クライアントが受信可能状態になってからデータを送信します。データがあることを通知するTIMをDTIM (Delivery Traffic Indication Message) と呼び、DTIMが含まれる周期はDTIM間隔で示される。例えば、DTIM間隔が5ならば、ビーコン5個間隔でDTIMが送信されるという意味になります。

## チャンネル制御

### チャンネル制御モード

チャンネル制御モード(固定/自動)を選択します。固定設定時は”使用チャンネル番号”設定により選択されたチャンネルを使用します。自動設定時は”選択対象チャンネル番号”にて選択されているチャンネルから周囲状況によりAPが自動で選択します。

### 使用チャンネル番号

”チャンネル制御モード”固定時にAPが使用するチャンネルを設定します。APは指定されたチャンネルを使用します。

### 選択可能帯域

”チャンネル制御モード”自動時にAPが使用するチャンネルの帯域を選択設定します。W52、W53、W56から使用する帯域を選択します。W52、W53、W56の組み合わせ7通りから選択可能です。

5GHz帯は屋内では全てのチャンネルが使用可能ですが、屋外ではW56のみ使用可能です。本APは屋内機器ですので屋内では全てのチャンネルが使用可能ですが、屋外に設置する場合はW56のみ使用してください(省令で定められています)。

**注意:** W53、W56の周波数帯は気象レーダー等でも使用されており、気象レーダー等が動作していることを検知するとチャンネルを自動的に変更するDFS機能を有しています(変更先がない場合は停波します)。

### 選択対象チャンネル番号

”チャンネル制御モード”自動時にAPが使用するチャンネルを選択設定します。APは選択されたチャンネルから周囲状況により選択します。

### 最大周波数帯域幅

最大周波数帯域幅(20MHz/40MHz)を選択します。802.11n動作時に40MHzを選択すると、40MHz(2チャンネル分)の帯域を使用することができます。APは周囲状況により20MHz/40MHzの切り替えを自動で行いません。

40MHzを保証するものではありません

### 送信出力設定(出力レベル)

送信出力レベルを設定します。無線モードにより最大送信出力レベルは異なります。画面上部の最大送信出力一覧をクリックすると確認できます。最大送信出力レベルを超える設定をした場合、最大送信出力レベルで出力されます。

他APへ干渉が発生している場合、送信出力レベルを調整することで干渉が緩和されることがあります

## プロテクション

### プロテクション動作

プロテクション動作の有効/無効を設定します。隠れ端末と呼ばれる、ある端末が他の端末のデータ転送していることを認識することができずにデータを伝送し始めるとフレームの衝突が発生し、スループットが低下します。プロテクション動作により衝突を回避できます。ただし、RTS信号やCTS信号のやりとりが発生するため、スループットは低下することになります。

基本的には無効でよいですが、端末数が多い場合に有効にすることでスループットが改善する場合があります。

### 設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

**注意:** ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場

# Authenticationサーバー設定

Authenticationサーバー設定

Authenticationサーバー番号 1

サーバー#1設定 有効 無効

サーバーIPアドレス 10.129.34.14

サーバーポート番号 1812 (0~65535)

共有秘密鍵 ●●●●●● (0~64文字)

入力確認

サーバー#2設定 有効 無効

サーバーIPアドレス 0.0.0.0

サーバーポート番号 1812 (0~65535)

共有秘密鍵 (0~64文字)

入力確認

設定

Authenticationサーバーリスト

No.	サーバー番号	接続	IPアドレス	ポート番号
1	1	有効	10129.34.14	1812
	2	無効	00.00	1812
2	1	有効	172.3.244.54	1812
	2	有効	172.3.244.55	1812
3	1	無効	00.00	1812
	2	無効	00.00	1812
4	1	無効	00.00	1812
	2	無効	00.00	1812
5	1	無効	00.00	1812
	2	無効	00.00	1812
6	1	無効	00.00	1812
	2	無効	00.00	1812
7	1	無効	00.00	1812
	2	無効	00.00	1812
8	1	無効	00.00	1812
	2	無効	00.00	1812
9	1	無効	00.00	1812
	2	無効	00.00	1812
10	1	無効	00.00	1812
	2	無効	00.00	1812
途中省略				
31	1	無効	00.00	1812
	2	無効	00.00	1812
32	1	無効	00.00	1812
	2	無効	00.00	1812

## Authenticationサーバー番号

設定を行うAuthenticationサーバーの番号を選択します。AuthenticationサーバーリストのNo1 ~ 32のどこに設定するか選択します。SSID設定(編集)画面にて選択するAuthenticationサーバーの番号となります

#### サーバー#1設定/サーバー#2設定

サーバー#1および#2の有効/無効を設定します。Authenticationサーバーを二重化することでシステムの信頼性を向上できます。APは使用中のAuthenticationサーバーが使用できなくなっても自動的に予備系に切り替えます。

#### サーバーIPアドレス

AuthenticationサーバーのIPアドレスを設定します。

#### サーバーポート番号

Authenticationサーバーで使用するポート番号を設定します。初期値: 1812 (RADIUS authentication protocol, radius) が設定されています。通常、変更不要です。

#### 共有秘密鍵

Authenticationサーバーとの共有秘密鍵を設定します。接続するAuthenticationサーバーに設定している共有秘密鍵と同じものを設定してください。

#### 設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意: ”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

#### Authenticationサーバーリスト

Authenticationサーバーの設定状態を表示します。

# Accountingサーバー設定

Accountingサーバー設定

Accountingサーバー番号 1

サーバー#1設定 有効 無効

サーバーIPアドレス 101.0.12.77

サーバーポート番号 1813 (0~65535)

共有秘密鍵 ●●●●●●●● (0~64文字)

入力確認

サーバー#2設定 有効 無効

サーバーIPアドレス 0.0.0.0

サーバーポート番号 1813 (0~65535)

共有秘密鍵

入力確認

設定

Accountingサーバーリスト

Nb.	サーバー番号	接続	IPアドレス	ポート番号
1	1	有効	101.0.12.77	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
2	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
3	1	有効	95.124.2.190	1813
	2	有効	95.124.2.191	1813
4	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
5	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
6	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
7	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
8	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
9	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
10	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
途中省略				
31	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813
32	1	無効	0.0.0.0	1813
	2	無効	0.0.0.0	1813

## Accountingサーバー番号

設定を行うAccountingサーバーの番号を選択します。AccountingサーバーリストのNo1～32のどこに設定するか選択します。SSID設定(編集)画面にて選択するAccountingサーバーの番号となります

#### サーバー#1設定/サーバー#2設定

サーバー#1および#2の有効/無効を設定します。Accountingサーバーを二重化することでシステムの信頼性を向上できます。APは使用中のAccountingサーバーが使用できなくなっても自動的に予備系に切り替えます。

#### サーバーIPアドレス

AccountingサーバーのIPアドレスを設定します。

#### サーバーポート番号

Accountingサーバーで使用するポート番号を設定します。初期値:1813(RADIUS accounting protocol, radius)が設定されています。通常、変更不要です。

#### 共有秘密鍵

Accountingサーバーとの共有秘密鍵を設定します。接続するAccountingサーバーに設定している共有秘密鍵と同じものを設定してください。

#### 設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

**注意:**”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

#### Accountingサーバーリスト

Accountingサーバーの設定状態を表示します。

# DNS設定

本設定によりDNSサーバーへの問い合わせなしに直接指定のIPアドレスへアクセスできます。

本設定によりDNSサーバーへの問い合わせなしに直接指定のIPアドレスへアクセスできます。

## DNS転送設定

設定を行う番号を選択します。DNS転送設定一覧のNo1～16のどこに設定するか選択します。

## ドメイン名

転送するドメイン名を設定します。

## 転送先DNSサーバーIPアドレス

転送先のIPアドレスを設定します。

## 設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

**注意:**”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

## DNS転送設定一覧

DNS転送設定状態が表示されます。

## 削除

クリックすると設定が削除されます。

# 端末接続許可設定



RADIUSサーバーを使用せずにAPにて指定したMACアドレスの端末のみを接続許可することができます。

## SSID名

端末接続許可設定を行うSSIDを選択します。

## 端末MACアドレス制限

MACアドレスによる接続制限を行うかの設定を行います。本設定有効時、本画面で設定されたMACアドレスのみが接続可能となります。

## 設定

「設定」をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の「適用」および「保存」の背景がオレンジ色に変化します。

注意: 「設定」クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には「適用」をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は「保存」をクリックして設定を保存してください。

## 接続許可端末MACアドレス

接続を許可する端末のMACアドレスを入力します。赤枠部分をクリックして入力してください。

## 追加

追加をクリックすると接続許可端末MACアドレスに入力したMACアドレスが追加され、下部の接続許可端末一覧に表示されます。

## 接続許可端末一覧

登録されている接続許可端末のMACアドレスを表示します、MACアドレス横のチェックをして削除ボタンをクリックすると削除されます。

# 回線設定



WAN回線が切断した状態を判断し、無線インターフェースを閉塞する場合に本設定を使用します。  
(監視対象はEthernetのリンク状態、L2TPトンネル状態、Ipsecトンネルの接続状態)

## リンクパススルー情報

リンクパススルーの現在の状態を表示します。

## リンクパススルー設定

### リンクパススルー機能

リンクパススルー機能の有効/無効を選択します。

## 検出遅延時間

検出遅延時間を設定します。WAN回線の切断検出から何秒後に無線インターフェースを閉塞するかを設定します。

## 設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

**注意:**”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場

# Web認証設定

Web認証設定

Web認証設定一覧

No.	装置インターフェイス名	状態	セキュリティ	Web認証編集	編集
1	IF01	無効	http	Web認証編集	編集
2	IF02	有効	https	Web認証編集	編集
3	IF03	無効	http	Web認証編集	編集
4	IF04	無効	http	Web認証編集	編集
5	IF05	無効	http	Web認証編集	編集
6	IF06	無効	http	Web認証編集	編集
7	IF07	無効	http	Web認証編集	編集
8	IF08	無効	http	Web認証編集	編集
9	IF09	無効	http	Web認証編集	編集
10	IF10	無効	http	Web認証編集	編集
11	IF11	無効	http	Web認証編集	編集
12	IF12	無効	http	Web認証編集	編集
13	IF13	無効	http	Web認証編集	編集
14	IF14	無効	http	Web認証編集	編集
15	IF15	無効	http	Web認証編集	編集
16	IF16	無効	http	Web認証編集	編集

Web認証設定状態を表示します。装置インターフェイス毎に編集ボタンから編集を行います。

**装置インターフェイス名**  
装置インターフェイス名を表示します。

**状態**  
当該装置インターフェイスのWeb認証設定の状態(有効/無効)を表示します。

**セキュリティ**  
Web認証セキュリティの設定状態(http/https)を表示します。

の編集時に編集を行う画面(Web認証編集/認証除外設定)を選択を行います。

**編集**  
”編集”をクリックすると で選択された画面に遷移します。

# Web認証編集

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

**Panasonic**

▶簡易設定  
▼無線ネットワーク設定  
装置インターフェイス設定  
SSID設定  
SSID詳細設定  
無線詳細設定  
Authenticationサーバー設定  
Accountingサーバー設定  
DNS設定  
端末接続許可設定  
回線設定  
**Web認証設定**  
▶ネットワーク設定  
▶アクセス設定  
▶システム設定  
▶状態  
▶保守

▶アクセス設定  
▶システム設定  
▶状態  
▶保守

## Web認証編集

装置インターフェイス名 IF01

### Web認証設定

Web認証  有効  無効  
アクセス先URL (?) (0~255文字)  
Web認証ページURL (?) (0~255文字)  
Web認証ポート番号 4990 (0~65535)  
Web認証キー (0~64文字)  
 入力確認  
Web認証セキュリティ  http  https

### Authentication/Accountingサーバー設定

#### Authenticationサーバー設定

サーバー#1 IPアドレス 0.0.0.0  
サーバー#2 IPアドレス 0.0.0.0  
サーバーポート番号 1812 (0~65535)  
共有秘密鍵 (0~64文字)  
 入力確認

NAS-Identifier (0~253文字)  
NAS-IP-Address 0.0.0.0  
Location-Name (0~247文字)  
Accounting機能  有効  無効  
Accountingサーバーポート番号 1813 (0~65535)

戻る 設定

**装置インターフェイス名**  
編集を行う装置インターフェイス名を選択します。選択/表示している装置インターフェイスのWeb認証編集を行います。

**Web認証設定**  
Web認証  
Web認証機能の有効/無効を設定します。

**アクセス先URL**  
認証後のトップページのURLを設定します。未入力の場合、アクセスしたURLへリダイレクトします。

**Web認証ページURL**  
Web認証ページのURLを設定します。未入力の場合、本装置内蔵の認証ページ(Webログイン画面)が使用されます。

**Web認証ポート番号**  
ポート番号を設定します。

**Web認証キー**  
外部認証サーバの認証ページ(Webログイン画面)を使用する場合時は、外部サーバと同じ値を設定します。

### Web認証セキュリティ

Web認証をhttpで行うかhttpsで行うかの設定をします。

### Authentication/Accountingサーバー設定

#### サーバー#x IPアドレス

Web認証用のAuthenticationサーバーのIPアドレスを設定します。サーバーを1台だけ使用する場合はサーバー#1IPアドレスにIPアドレスを設定してください。2台使用する場合は#1、#2にそれぞれ設定してください。

#### サーバーポート番号

ポート番号を設定します(初期値:1812)。古いサーバーの場合1645を使用する場合があります。

#### 共有秘密鍵

Authenticationサーバとの共有秘密鍵を設定します。Authenticationサーバーと同じ値を設定します。

#### NAS-Identifier

Access-Request を送信したネットワークアクセスサーバを識別する文字列。本装置のIPアドレスを設定します。

#### NAS-IP-Address

認証を要求しているネットワークアクセスサーバのIP アドレスを示します。

#### Location-Name

Authenticationサーバへ通知するLocation-Nameを設定します。

#### Accounting機能

Web認証サーバを同時にAccountingサーバーとして利用するかを設定します。

#### Accountingサーバーポート番号

Accountingサーバーで使用するポート番号を設定します。初期値:1813(RADIUS accounting protocol, radius)が設定されています。通常、変更不要です。

### 設定

”設定”をクリックすると本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

**注意:**”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場

# 認証除外設定

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

**Panasonic**

▶ 簡易設定

▼ 無線ネットワーク設定

- 装置インターフェイス設定
- SSID設定
- SSID詳細設定
- 無線詳細設定
- Authenticationサーバー設定
- Accountingサーバー設定
- DNS設定
- 端末接続許可設定
- 回線設定
- Web認証設定**

▶ ネットワーク設定

▶ アクセス設定

▶ システム設定

▶ 状態

▶ 保守

## 認証除外設定

装置インターフェイス名 IF01

認証除外設定 1

IPアドレス[/プレフィックス] 192.168.0.4/24

戻る 設定

認証除外設定一覧

No.	IPアドレス[/プレフィックス]	全削除
1	192.168.0.4/24	削除
2		削除
3		削除
4		削除
5		削除
6		削除
7		削除
8		削除
9		削除
途中省略		
31		削除
32		削除

**装置インターフェイス**  
認証除外設定を行う装置インターフェイスを選択します。

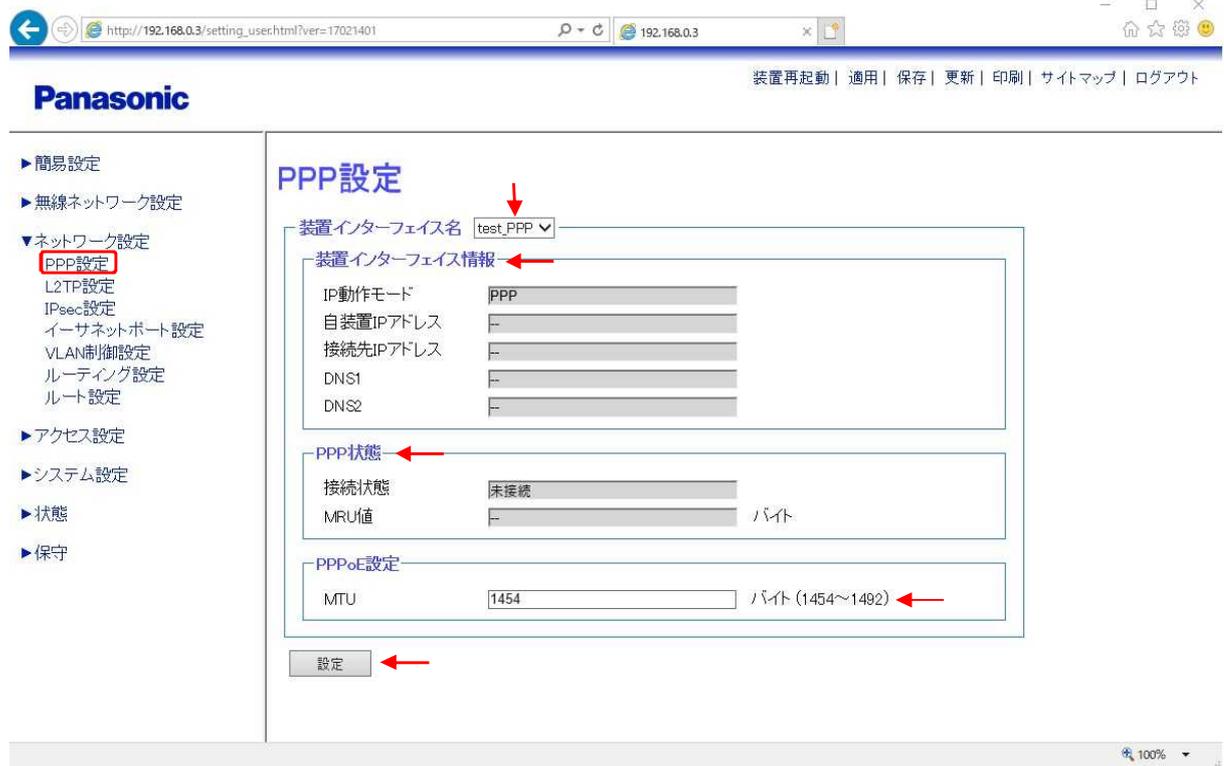
**認証除外設定**  
認証除外設定を行う番号を選択します。32個の設定が可能であり1～32から選択します。

**IPアドレス[/プレフィックス]**  
認証除外対象のアドレスを指定します。プレフィックスをつけることで、アドレス範囲を指定することも可能です。

**設定**  
"設定"をクリックすると指定した番号に認証除外設定がされます。認証除外設定一覧に設定内容が表示されます。

画面上部の"適用"および"保存"の背景がオレンジ色に変化します。  
注意:"設定"クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には"適用"をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場

# PPP設定



PPPoE使用時のMTU設定および接続状態を表示します。

**装置インターフェイス名**  
PPP設定を行う装置インターフェイス名を選択します。

**装置インターフェイス情報**  
で選択した装置インターフェイスの情報を表示します。PPPoE接続時に取得したIPアドレス等が表示されます。

**PPP状態**  
PPPの状態を表示します。

## PPPoE設定

### MTU

Ethernetフレーム変換前のデータの最大送信バイト数を設定します。回線のMTU値に合わせて設定してください。不明な場合は1492を設定してください。

### 設定

”設定”をクリックすると指定した番号に認証除外設定がされます。認証除外設定一覧に設定内容が表示されます。

画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意:”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場

# L2TP設定

http://192.168.0.3/setting\_usechtml?ver=17021401 192.168.0.3

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

## Panasonic

- ▶簡易設定
- ▶無線ネットワーク設定
- ▼ネットワーク設定
  - PPP設定
  - L2TP設定**
  - IPsec設定
  - イーサネットポート設定
  - VLAN制御設定
  - ルーティング設定
  - ルート設定
- ▶アクセス設定
- ▶システム設定
- ▶状態
- ▶保守

### L2TP設定

装置情報

サポートバージョン: 3

装置設定

ホスト名: (0~64文字)

ルーターID: 0.0.0.0

設定

対象トンネル: 1

L2TP情報

トンネル

現用サーバー: 1

接続状態: アイドル

コネクションID 自装置 / 接続先: /

L2TP設定

トンネル設定

サーバー#1設定

トンネル機能: 有効 無効

接続先IPアドレス: 0.0.0.0

接続先ホスト名: (0~64文字)

接続先ルーターID: 0.0.0.0

サーバー#2設定

トンネル機能: 有効 無効

接続先IPアドレス: 0.0.0.0

接続先ホスト名: (0~64文字)

接続先ルーターID: 0.0.0.0

セッション1設定

セッション機能: 有効 無効

接続用EndID: 0

Pseudowire Type: Ethernet VLAN

セッション2設定

セッション機能: 有効 無効

セッション3設定

セッション機能: 有効 無効

セッション4設定

セッション機能: 有効 無効

途中省略

セッション15設定

セッション機能: 有効 無効

セッション16設定

セッション機能: 有効 無効

設定

トンネル一覧

Nb.	現用サーバー	トンネル状態	サーバー番号	トンネル機能	接続先IPアドレス	接続先ホスト名	接続先ルーターID
1	1	アイドル	1	無効	0.0.0.0		0.0.0.0
			2	無効	0.0.0.0		0.0.0.0

2	1	アイドル	1	無効	0.0.0	0.0.0
			2	無効	0.0.0	0.0.0
3	1	アイドル	1	無効	0.0.0	0.0.0
			2	無効	0.0.0	0.0.0
4	1	アイドル	1	無効	0.0.0	0.0.0
			2	無効	0.0.0	0.0.0

L2TPのサーバー設定および装置インターフェイス設定にて転送先設定のL2TPトンネル1～4に設定したセッションの詳細を設定します。L2TPにVLANを付与する場合は”VLAN制御設定”画面にてVLANの設定を行います。

#### 装置情報

##### サポートバージョン

サポートするL2TPプロトコルバージョンを示します。本装置では3固定です。

#### 装置設定

##### ホスト名

L2TP接続時に使用する、本装置のホスト名を指定します。ホスト名は同一のサーバー配下では重複しないようにする必要があり、サーバーと設定が一致しないと接続できません。また、L2TP接続でしか使用しませんので、本装置のドメイン名などとは関係ありません。

##### ルーターID

L2TP接続時に使用する、本装置のルーターIDをIPアドレス形式で指定します。ルーターIDは同一のサーバー配下で重複しないようにする必要があり、サーバーと設定が一致しないと接続できません。また、L2TP接続でしか使用しませんので、本装置のIPアドレスとは関係ありません。

##### 設定

”設定”をクリックすると に指定した内容が設定されます。

##### 対象トンネル

編集を行うトンネル番号を選択します。

#### L2TP情報

##### トンネル

現在のトンネルの状態を表示します。

#### L2TP設定

##### トンネル設定

##### サーバー#1設定/サーバー#2設定

##### トンネル機能

このサーバーに対するL2TPトンネル接続の有効/無効を設定します。

##### 接続先IPアドレス

接続先サーバーのIPアドレスを設定します。

##### 接続先ホスト名

L2TP接続時に使用する、接続先サーバーのホスト名を指定します。サーバーに設定されたホスト名と一致しないと接続できません。また、L2TP接続でしか使用しませんので、サーバーのドメイン名などとは関係ありません。

##### 接続先ルーターID

L2TP接続時に使用する、接続先サーバーのルーターIDをIPアドレス形式で指定します。サーバーに設定されたルーターIDと一致しないと接続できません。また、L2TP接続でしか使用しませんので、サーバーのIPアドレスとは関係ありません。

#### セッションx設定(xは1～15)

##### セッション機能

このトンネルにおけるL2TPセッションの有効/無効を設定します。

#### 接続用EndID

L2TP接続時に使用する、接続先サーバーのEnd IDを指定します。サーバーに設定されたEnd IDと一致しないと接続できません。

#### Pseudowire Type

L2TP接続時に使用する、Pseudowire Typeを指定します。サーバーに設定されたPseudowire Typeと一致しないと接続できません。

#### 設定

”設定”をクリックすると指定したトンネル番号の設定がされます。トンネル一覧に設定内容が表示されます。

# IPsec設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

IPsec設定

IPsecエントリー番号 1

IKE状態表示

IKE SA状態	--
暗号アルゴリズム	aes-128-cbc
ハッシュアルゴリズム	hmac_sha1

IPsec状態表示

IPsec SA状態	--
IPsec 通信方式	トンネルモード
SAプロトコル	esp
暗号アルゴリズム	aes-128-cbc
認証アルゴリズム	hmac_sha1

サーバー設定

IPsec設定  有効  無効

装置インターフェイス名

接続先IPアドレス/ドメイン名

事前共有秘密鍵設定

PreSharedKey値   入力確認

ローカルID設定

ID種別  IPアドレス、または、公開鍵証明書のサブジェクト  FQDN

FQDN  (0~32文字)

暗号化設定

Diffie-Hellmanグループ 2

セキュリティポリシー設定

デフォルトポリシー  透過  破棄

設定

**IPsecエントリー番号**  
設定を行うIPsecエントリー番号を選択します。

**IKE状態表示**  
現在のIPsec IKE(鍵交換)状態を表示します。

**IPsec状態表示**  
現在のIPsec SA(セキュリティ接続)状態を表示します。

## サーバー設定

### Ipsec設定

#### Ipsec設定

このサーバーに対するIPsec接続の有効 / 無効を設定します。

#### 装置インターフェイス名

このサーバーへのIPsec接続に使用する装置IFを設定します。

#### コネクション先IPアドレス/ドメイン名

接続先サーバーのIPアドレスを設定します。IPアドレスの代わりに、ドメイン名での指定も可能です。

### 事前共有秘密鍵

#### PresharedKey値

このサーバーとのIPsec鍵交換に使用する、Preshared Keyを設定します。サーバーに設定されたPreshared Keyと一致しないと接続できません。

### ローカルID設定

#### ID種別

このサーバーとのIPsec鍵交換に使用する、本装置のID種別を設定します。サーバーに設定されたID種別と一致しないと接続できません。

#### FQDN

このサーバーとのIPsec鍵交換に使用する、本装置のFQDNを設定します。ID種別がFQDNの場合、サーバーに設定されたFQDNと一致しないと接続できません。

### セキュリティポリシー設定

#### デフォルトポリシー

適切なIPsec暗号化が行われていないパケットを受信した場合の動作を設定します。透過に設定すると暗号化されていないパケットが廃棄されなくなり、閉域網以外での使用は危険です。必ず適切なフィルタと組み合わせで使用下さい。

#### 設定

"設定"をクリックするとIPsec番号の設定がされます。

# イーサネットポート設定

http://192.168.0.3/setting\_usehtml?ver=17021401

192.168.0.3

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

## Panasonic

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▼ ネットワーク設定
  - PPP設定
  - L2TP設定
  - IPsec設定
  - イーサネットポート設定**
  - VLAN制御設定
  - ルーティング設定
  - ルート設定
- ▶ アクセス設定
- ▶ システム設定
- ▶ 状態
- ▶ 保守

### イーサネットポート設定

ポート情報

リンク状態	接続
通信方式	1000BASE-T全二重通信
MDI	自動

ポート設定

通信方式	オートネゴシエーション
------	-------------

javascript:menuJump('cgi-bin/ethernetport.lua','content')

100%

## ポート情報

現在のイーサネットポートの状態を表示します。

## ポート設定

### 通信方式

オートネゴシエーション固定 (変更できません)

# VLAN制御設定

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▼ 簡易設定  
▼ 無線ネットワーク設定  
▼ ネットワーク設定  
PPP設定  
L2TP設定  
IPsec設定  
イーサネットポート設定  
**VLAN制御設定**  
ルーティング設定  
ルート設定  
▶ アクセス設定  
▶ システム設定  
▶ 状態  
▶ 保守

## VLAN制御設定

VLAN制御

VLAN制御機能  有効  無効 ←

設定 ←

VLAN設定 新規登録 ←

VLAN-ID  (0~4095) ←

イーサネット  タグあり  タグなし  無効 ←

L2TPトンネル1  タグあり  タグなし  無効 ←

セッション  ←

L2TPトンネル2  タグあり  タグなし  無効

セッション

L2TPトンネル3  タグあり  タグなし  無効

セッション

L2TPトンネル4  タグあり  タグなし  無効

セッション

設定 ←

VLAN制御一覧 転送先一覧

Nb.	VLAN-ID	タグ種別	転送先設定	全削除	削除
—	VLAN-IDなし	—	—	←	←

100%

イーサネットやL2TPトンネルで送受信されるフレームのVLANタグ有無を設定します。

## VLAN制御

### VLAN制御機能

イーサネットやL2TPトンネルで送受信されるフレームのVLANタグ有無を設定します。この設定が有効な場合、VLAN設定が一致しないフレームは送受信されなくなります。(L2TPで中継されるフレームのみ、いずれかの装置IFのVLAN設定が無効であれば転送が行われます。)

### 設定

クリックするとVLAN制御の設定を行います。

### VLAN設定

VLAN設定(新規登録、VLAN-IDなし、既設定VLAN-ID)を行う項目を選択します。

#### VLAN-ID

設定を行うVLAN-IDを指定します。

#### イーサネット

イーサネット送受信時のVLANタグ有無を設定します。

#### L2TPトンネル1～4

このL2TPトンネルの指定セッション送受信時のVLANタグ有無を設定します。

#### セッション

設定対象のセッション番号を指定します。

#### 設定

”設定”をクリックすると指定したVLAN-IDの転送設定がされます。VLANID制御一覧に設定内容が表示されます。

#### 削除/全削除

VLAN設定で設定したVLAN-IDによるtaggedとuntaggedの転送設定または全転送設定を削除します。

# ルーティング設定

ルーティング設定

ルーティング 1  有効  無効

ルーティング装置インターフェイス設定

装置インターフェイス名1 IF01  
装置インターフェイス名2 IF10

SPI設定

SPI  有効  無効

設定

ルーティング設定一覧

Nb.	動作	装置インターフェイス名1	装置インターフェイス名2	SPI	
1	有効	IF01	IF10	有効	削除
2	無効	—	—	無効	削除
3	無効	—	—	無効	削除
4	無効	—	—	無効	削除
5	無効	—	—	無効	削除
6	無効	—	—	無効	削除
7	無効	—	—	無効	削除
8	無効	—	—	無効	削除
9	無効	—	—	無効	削除
10	無効	—	—	無効	削除
11	無効	—	—	無効	削除
12	無効	—	—	無効	削除
13	無効	—	—	無効	削除
14	無効	—	—	無効	削除
15	無効	—	—	無効	削除
16	無効	—	—	無効	削除

ルーティング設定No選択  
ルーティング設定Noを選択します。

有効/無効選択  
ルーティング設定の有効/無効を選択します。

ルーティング装置インターフェイス設定  
装置インターフェイス間の紐づけを行います。ここで設定した装置インターフェイス間でルーティングされます。

SPI  
Stateful Packet Inspection機能を有効にするか設定します。

### 設定

”設定”をクリックすると下部のルーティング一覧に設定内容が表示され、本画面の設定が保持されます。また、画面上部の”適用”および”保存”の背景がオレンジ色に変化します。

注意:”設定”クリックにより他の画面に移っても本画面の設定は保持されますが、装置へはまだ適用および保存はされていません。装置への適用には”適用”をクリックしてください。装置再起動、電源OFFにする場合は”保存”をクリックして設定を保存してください。

### 削除

”削除”をクリックすると当該ルーティング設定が削除されます。

# ルート設定

ブラウザのアドレスバー: http://192.168.0.3/setting\_user.html?ver=17021401

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

▼ 簡易設定  
▼ 無線ネットワーク設定  
▼ ネットワーク設定  
    PPP設定  
    L2TP設定  
    IPsec設定  
    イーサネットポート設定  
    VLAN制御設定  
    ルーティング設定  
    **ルート設定**  
▶ アクセス設定  
▶ システム設定  
▶ 状態  
▶ 保守

### ルート設定

デフォルトルート設定

ゲートウェイ: 0.0.0.0  
装置インターフェイス名: [選択]

設定

スタティックルート設定: 1

宛先IPアドレス: 0.0.0.0  
マスク値: 0.0.0.0  
ゲートウェイ: 0.0.0.0  
装置インターフェイス名: [選択]

設定

状態参照

ルート設定一覧

No.	宛先IPアドレス	マスク値	ゲートウェイ	装置インターフェイス名	
DR	—	—	0.0.0.0		削除
1	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
2	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
3	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
4	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
5	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
6	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
7	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
8	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
途中省略					
28	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
29	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
30	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
31	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除
32	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0		削除

100%

## デフォルトルート設定

装置インターフェイスのデフォルトルートを設定します。装置インターフェイス名を選択し、ゲートウェイに転送先のIPアドレスを設定します。

## 設定

”設定”をクリックすると に指定した内容が設定されます。下部のルート設定一覧のDRに表示されます。

## スタティックルート設定No選択

最大32個のスタティックルートを設定可能。ルートを設定するNoを選択します。

### スタティックルート設定

スタティックルート設定を行うIPアドレス/マスク値を指定し、装置インターフェイス名を選択し、ゲートウェイに転送先IPアドレスを設定します。

### 設定

”設定”をクリックすると に指定した内容が設定されます。下部のルート設定一覧の で指定したNoに表示されます。

### 削除

”削除”をクリックすると当該行の設定が削除されます。

# 条件設定

条件設定

条件番号 1

条件内容

送信元MACアドレス  
送信元MACアドレスマスク値  
宛先MACアドレス  
宛先MACアドレスマスク値  
イーサネットタイプ (HEX:0000~FFFF)  
送信元IPアドレス  
送信元IPマスク値  
宛先IPアドレス  
宛先IPマスク値  
TOS (0~255)  
プロトコル番号 (0~255)  
送信元ポート番号 (?) (0~65535)  
宛先ポート番号 (?) (0~65535)  
※ 未入力の項目は、Don't careとして扱われる。

設定

条件一覧

No.	送信元MACアドレス 送信元MACアドレス マスク値	宛先MACアドレス 宛先MACアドレス マスク値	イーサ ネット タイプ	送信元IPアドレス 送信元IPアドレス マスク値	宛先IPアドレス 宛先IPアドレス マスク値	TOS プロトコル 番号	送信元 ポート 番号 宛先 ポート 番号	
1				192.168.0.100 255.255.255.0				削除
2	a8:13:74:c3:16:55	11:00:00:11:12:2c						削除

データフレーム(無線LAN端末への送信フレームおよび無線LAN端末からの受信フレーム)に対して、MACレイヤおよびIPレイヤでのフィルタリングを行う場合のフィルタリング条件を設定します。フィルタリング条件は最大512個設定可能です。  
未入力(空白)の項目は無視されます。

## 条件番号

条件番号(1~512)を指定します。既設定の条件番号を選択すると条件内容が表示されます。

## 条件内容

送信元(宛先)MACアドレス/送信元(宛先)MACアドレスマスク値

送信元(宛先)MACアドレスには条件となるMACアドレスを指定します。MACアドレスマスク値は指定したMACアドレスのどのビットをフィルタ条件(1が有効)とするかを指定します(16進数)。

例としてMACアドレス:88:b1:11:23:d2:e0 MACアドレスマスク値:ff:ff:ff:00:00:00 とした場合、88:b1:11:00:00:00~88:b1:11:ff:ff:ffが条件となります。

#### イーサネットタイプ

イーサネットフレームのタイプ番号を指定します。16進数(0000～FFFF)にて指定します。  
例として0800とした場合、上位プロトコルIPv4が条件となります。

#### 送信元(宛先)IPアドレス/送信元(宛先)IPアドレスマスク値

送信元(宛先)IPアドレスには条件となるIPアドレスを指定します。IPアドレスマスク値は指定したIPアドレスのぼのビットをフィルタ条件(1が有効)とするかを指定します(10進数)。  
例としてIPアドレス:192.168.1.100 IPアドレスマスク値:255.255.255.0 とした場合、192.168.1.0～192.168.1.255が条件となります。

#### TOS

IPフレームのTOSフィールドの値を指定します(0～255 10進数)。

#### プロトコル番号

IP上位層のプロトコル番号を指定します(0～255 10進数)。例として17とした場合、UDPが条件となります。

#### 送信元(宛先)ポート番号

ポート番号を指定します(0～65535 10進数)。例として80とした場合、httpが条件となります。

#### 設定

”設定”をクリックすると指定した内容が設定されます。下部の条件一覧に設定内容が表示されます。

# 自装置宛フィルター設定

自装置宛フィルター設定

装置インターフェイス名: IF02

フィルター条件登録

条件番号: [ ]

実施種別:  透過  破棄

設定

フィルター不一致フレームの透過/破棄

フィルタリング実施種別:  透過  破棄

設定

登録済み全フィルター条件削除

削除

登録済みフィルター条件一覧

No.	条件番号 実施種別	送信元MACアドレス 送信元MACアドレス マスク値	宛先MACアドレス 宛先MACアドレス マスク値	イーサ タイプ	送信元IPアドレス 送信元IPアドレス マスク値	宛先IPアドレス 宛先IPアドレス マスク値	TOS プロトコル 番号	送信元 ポート番号 宛先 ポート番号	
1	透過				192.168.0.100 255.255.255.0				削除
2	破棄	a81374:c31655	11:00:0011122c						削除

本装置の装置インターフェイス宛のフィルター設定を行う場合に設定します。

**装置インターフェイス名**  
フィルター登録を行う装置インターフェイス名を選択します。登録済みの条件がある場合、下部の登録済みフィルタ条件一覧に表示されます。

## フィルター条件登録

### 条件番号

”条件設定画面”で設定した条件番号を入力します。

### 実施種別

の条件に一致する場合にフレームを透過するか破棄するかの設定をします。

### 設定

”設定”をクリックすると条件登録され、登録済みフィルタ条件一覧に表示されます。

## **フィルター不一致フレームの透過廃棄**

### **フィルタリング実施種別**

当該装置インターフェイスの登録済みフィルター条件一覧の全ての条件に一致しないフレームを透過するか破棄するかを設定をします。

### **設定**

”設定”をクリックするとフィルタリング実施種別が登録されます。

## **登録済み全フィルター条件削除**

### **削除**

”削除”をクリックすると当該装置インターフェイスの登録済みフィルタ条件が全て削除されます。

## **登録済みフィルター条件一覧**

### **削除**

”削除”をクリックすると当該Noの条件を削除します。

# 無線送信フィルター設定

無線送信フィルター設定

SSID名

フィルター簡易設定

ブロードキャストフィルター設定

ブロードキャストフィルター  有効  無効

マルチキャストフィルター設定

マルチキャストフィルター  有効  無効

設定

フィルター条件登録

条件番号

実施種別  透過  破棄

設定

フィルター不一致フレームの透過/破棄

フィルタリング実施種別  透過  破棄

設定

登録済み全フィルター条件削除

削除

登録済みフィルター条件一覧

No.	条件番号	実施種別	送信元MACアドレス	宛先MACアドレス	イーサタイプ	送信元IPアドレス	宛先IPアドレス	TOS	送信元ポート番号	宛先ポート番号	
1	1	透過				192.168.0.100					削除
2	2	破棄	a8:13:74:c3:16:55	11:00:00:11:12:2c		255.255.255.0				削除	

本装置の無線送信のフィルター設定を行う場合に設定します。

SSID名  
フィルタ設定を行うSSIDを選択します。

フィルター簡易設定  
ブロードキャストフィルタ  
全ブロードキャストパケットに対して、フィルタリング(破棄)を行う設定をします。

マルチキャストフィルタ  
全マルチキャストパケットに対してフィルタリング(破棄)を行う設定をします。

設定  
"設定"をクリックすると、フィルタ簡易設定が設定されます。

フィルター条件登録  
条件番号  
"条件設定画面"で設定した条件番号を入力します。

実施種別  
の条件に一致する場合にフレームを透過するか破棄するかを設定をします。

設定  
"設定"をクリックすると条件登録され、登録済みフィルタ条件一覧に表示されます。

フィルター不一致フレームの透過廃棄  
フィルタリング実施種別  
当該装置インターフェイスの登録済みフィルター条件一覧の全ての条件に一致しないフレームを透過するか破棄するかの設定をします。

設定  
"設定"をクリックするとフィルタリング実施種別が登録されます。

登録済み全フィルター条件削除  
削除  
"削除"をクリックすると当該装置インターフェイスの登録済みフィルタ条件が全て削除されます。

登録済みフィルター条件一覧  
削除  
"削除"をクリックすると当該Noの条件を削除します。

# 無線受信フィルター設定

無線受信フィルター設定

SSID名: SSID01

フィルター条件登録

条件番号: [ ]

実施種別:  透過  破棄

設定

フィルター不一致フレームの透過/破棄

フィルタリング実施種別:  透過  破棄

設定

登録済み全フィルター条件削除

削除

登録済みフィルター条件一覧

No.	条件番号 実施種別	送信元MACアドレス 送信元MACアドレス マスク値	宛先MACアドレス 宛先MACアドレス マスク値	イーサ タイプ	送信元IPアドレス 送信元IPアドレス マスク値	宛先IPアドレス 宛先IPアドレス マスク値	TOS プロトコル 番号	送信元 ポート番号 宛先 ポート番号	
1	透過				192.168.0.100 255.255.255.0				削除
2	破棄	a8:13:74:c3:16:55	11:00:00:11:12:2c						削除

本装置の無線受信のフィルター設定を行う場合に設定します。

## SSID名

フィルター登録を行うSSID名を選択します。登録済みの条件がある場合、下部の登録済みフィルタ条件一覧に表示されます。

## フィルター条件登録

### 条件番号

”条件設定画面”で設定した条件番号を入力します。

### 実施種別

の条件に一致する場合にフレームを透過するか破棄するかの設定をします。

### 設定

”設定”をクリックすると条件登録され、登録済みフィルタ条件一覧に表示されます。

フィルター不一致フレームの透過廃棄

フィルタリング実施種別

当該SSIDの登録済みフィルター条件一覧の全ての条件に一致しないフレームを透過するか破棄するかの設定をします。

設定

”設定”をクリックするとフィルタリング実施種別が登録されます。

登録済み全フィルター条件削除

削除

”削除”をクリックすると当該装置インターフェイスの登録済みフィルタ条件が全て削除されます。

登録済みフィルター条件一覧

削除

”削除”をクリックすると当該Noの条件を削除します。

# 無線送信TOSマッピング設定

無線送信TOSマッピング設定

SSID名: SSID01

TOSマッピング登録

条件番号:

TOS値:  (0~255)

設定

TOSマッピング不一致フレームのTOS値

TOS値:  (0~255)

設定

登録済み全TOSマッピング削除

削除

登録済みTOSマッピング一覧

No.	条件番号 TOS値	送信元MACアドレス 送信元MACアドレス マスク値	宛先MACアドレス 宛先MACアドレス マスク値	イーサ タイプ	送信元IPアドレス 送信元IPアドレス マスク値	宛先IPアドレス 宛先IPアドレス マスク値	TOS プロトコル 番号	送信元 ポート番号 宛先 ポート番号	
1	1				192.168.1.10				削除
	7				255.255.255.0				

本装置の無線送信のTOSマッピング設定を行う場合に設定します。

## SSID名

TOSマッピングを行うSSID名を選択します。登録済みのマッピング条件がある場合、下部の登録済みTOSマッピング一覧に表示されます。

## TOSマッピング登録

### 条件番号

”条件設定画面”で設定した条件番号を入力します。

### TOS値

の条件に一致する場合にフレームに設定したTOS値を付与する設定をします。

### 設定

”設定”をクリックすると条件登録され、登録済みTOSマッピング一覧に表示されます。

## TOSマッピング不一致フレームのTOS値

### TOS値

当該SSIDの登録済みTOSマッピング一覧の全ての条件に一致しないフレームのTOS値を設定をします。

### 設定

”設定”をクリックすると条件に一致しないフレームのTOS値が登録されます。

登録済み全TOSマッピング削除

削除

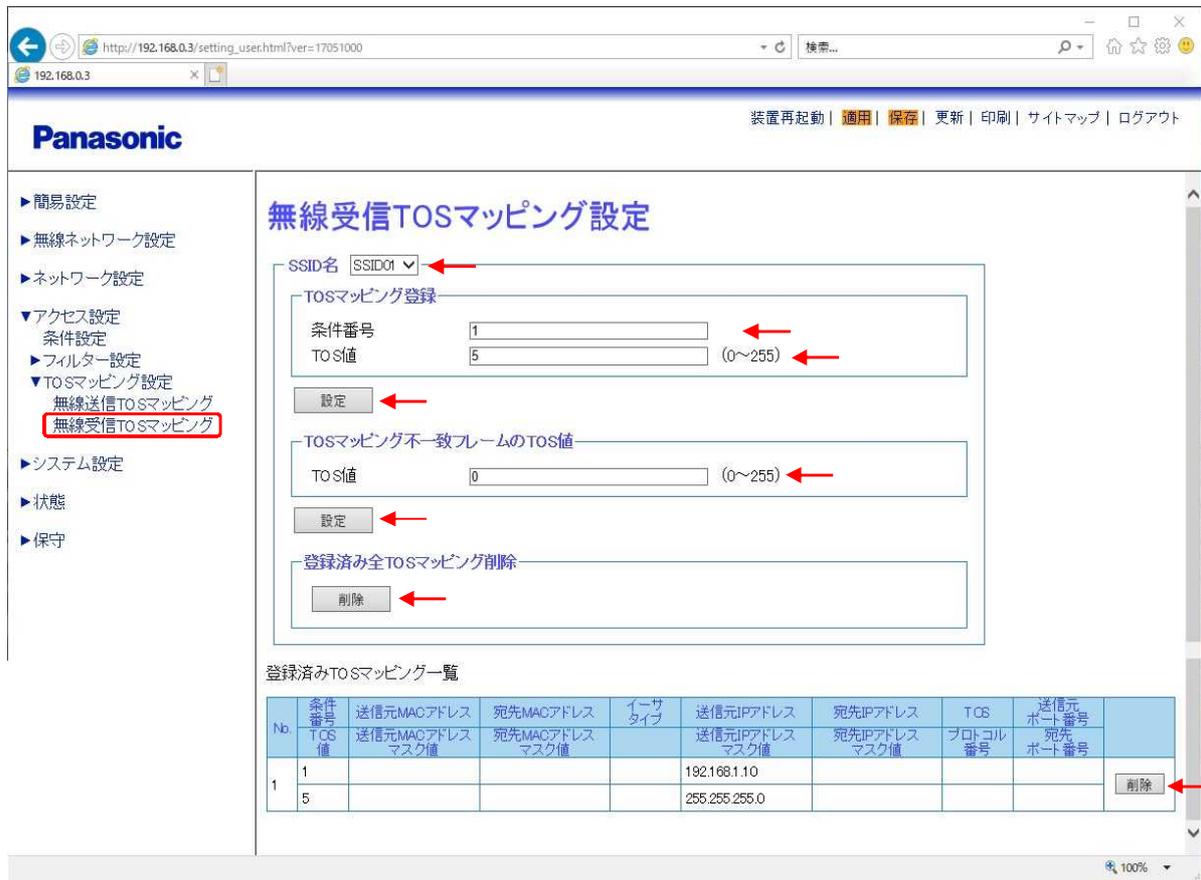
”削除”をクリックすると当該装置インターフェイスの登録済みTOSマッピング一覧が全て削除されます。

登録済みTOSマッピング一覧

削除

”削除”をクリックすると当該Noの登録済みTOSマッピングを削除します。

# 無線受信TOSマッピング設定



本装置の無線受信のTOSマッピング設定を行う場合に設定します。

## SSID名

TOSマッピングを行うSSID名を選択します。登録済みのマッピング条件がある場合、下部の登録済みTOSマッピング一覧に表示されます。

## TOSマッピング登録

### 条件番号

”条件設定画面”で設定した条件番号を入力します。

### TOS値

の条件に一致する場合にフレームに設定したTOS値を付与する設定をします。

### 設定

”設定”をクリックすると条件登録され、登録済みTOSマッピング一覧に表示されます

## TOSマッピング不一致フレームのTOS値

### TOS値

当該SSIDの登録済みTOSマッピング一覧の全ての条件に一致しないフレームのTOS値を設定をします。

### 設定

”設定”をクリックすると条件に一致しないフレームのTOS値が登録されます。

登録済み全TOSマッピング削除

削除

”削除”をクリックすると当該装置インターフェイスの登録済みTOSマッピング一覧が全て削除されます。

登録済みTOSマッピング一覧

削除

”削除”をクリックすると当該Noの登録済みTOSマッピングを削除します。

# 装置設定

装置時刻設定

装置時刻  (年(西暦4桁)/月/日 時:分:秒) ←

設定 ←

ログアウトタイマー設定

ログアウトタイマー  秒 (60~3600) ←

設定 ←

装置情報

装置ロケーション (sysLocation)  (0~255文字) ←

担当者/連絡先 (sysContact)  (0~255文字) ←

装置名称 (sysName)  (0~255文字) ←

設定 ←

ソフトウェア制御

ファームウェア起動面  1面  2面 ←

設定 ←

本装置のシステムに関する設定を行うことができます。

## 装置時刻設定

### 装置時刻

装置時刻を手動で設定することができます。"yyyy/MM/dd hh:mm:ss"の形式で入力してください。

### 設定

"設定"をクリックすると、入力した装置時刻を設定します。

## ログアウトタイマー設定

### ログアウトタイマー

一定時間操作しないと自動的にログアウトする時間(0 ~ 3600秒)を入力します。

### 設定

"設定"をクリックすると、入力したログアウトタイマーを設定します。

## 装置情報

### 装置ロケーション(sysLocation)

0~255文字の半角英数字で装置ロケーションを入力します。

### 担当者/連絡先(sysContact)

0~255文字の半角英数字で担当者 / 連絡先を入力します。

装置名称(sysName)

0～255文字の半角英数字で装置名称を入力します。

設定

”設定”をクリックすると、入力した装置情報を設定します。

ソフトウェア制御

ファームウェア起動面

起動するファームウェアを1面か2面かを選択します。

設定

”設定”をクリックすると、選択されたファームウェア面を設定します。

# ファイル名設定

The screenshot shows the Panasonic web interface for file name settings. The browser address bar shows the URL [http://192.168.0.3/setting\\_user.html?ver=17021401](http://192.168.0.3/setting_user.html?ver=17021401). The Panasonic logo is visible in the top left. The navigation menu on the left includes: 簡易設定, 無線ネットワーク設定, ネットワーク設定, アクセス設定, システム設定 (with sub-items: 装置設定, **ファイル名設定**, 監視設定, 監視制御/ログ設定), 状態, and 保守. The main content area is titled "ファイル名設定" and contains a table of file names and their corresponding input fields. A red box highlights "ファイル名設定" in the menu, and red arrows point to the input fields and the "設定" button.

ファイル名設定	入力欄
ファームウェア両面用	firmware
ファームウェア1面用	firmware1
ファームウェア2面用	firmware2
設定読み出し用	config_r
設定書き込み用	config_w
イベントログ用	eventlog.zip
端末管理ログ用	stationlog.zip
アクセスログ用	accesslog.zip
自動ダウンロードファームウェア情報用	autodownload
自動ダウンロード設定データ情報用	autoconfig
Web認証HTML用	webauthhtml.zip
ファームウェア実行結果	firmware_result.txt
設定書き込み実行結果	config_result.txt
Web認証HTML実行結果	webauthhtml_result.txt

※ファイル名の入力は1~32文字

設定

本装置で使用/生成する各種ファイルのファイル名を設定します。

# SNMP設定



本装置はSNMPエージェントとしてSNMPマネージャーから監視、制御を行うことができます。本装置の遠隔監視制御を実現するためSNMPv1及びSNMPv2cをサポートします。本装置はMIB(ネットワークに接続された機器の状態を表す管理情報データベース)を管理し、SNMPマネージャからの要求に従ってMIB情報の読み出し/書き込みを行うことができます。

## SNMPアクセス許可設定

### アクセス許可設定

SNMPマネージャからのアクセスの許可/禁止を設定します。

### 設定

”設定”をクリックすると の設定が行われます。

### 編集

任意のNoの”編集”をクリックするとSNMP編集画面に遷移します。SNMP編集画面にてアクセス権、コミュニティ名を設定します。

# SNMP編集



**コミュニティ番号**  
編集を行うコミュニティ番号を選択します。

**SNMP設定**  
**アクセス権**  
SNMPマネージャが本装置に行える内容を”読み出しのみ/読み書き可能”から設定します。

**コミュニティ名**  
コミュニティ名を設定します。

**設定**  
”設定”をクリックすると設定されます。

# TRAP通知設定

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

## TRAP通知設定

TRAPコミュニティ設定一覧

No.	装置インターフェイス名	通知先アドレス/ドメイン名	Ver.	コミュニティ名	
1			V1	public	編集
2			V1		編集
3			V1		編集
4			V1		編集
5			V1		編集
6			V1		編集
7			V1		編集
8			V1		編集
9			V1		編集
10			V1		編集
11			V1		編集
12			V1		編集
13			V1		編集
14			V1		編集
15			V1		編集
16			V1		編集

SNMPマネージャーへTRAP送信をすることができます。SNMPマネージャーは別途準備が必要です。TRAP送信には監視制御/ログ設定画面にて監視制御設定をONにする必要があります。

## 編集

任意のNoの”編集”をクリックするとTRAP通知編集画面へ遷移します。

# TRAP通知編集



## TRAP番号

編集を行うTRAP番号を選択します。

## TRAP通知設定

### 装置インターフェイス名

TRAP通知を行う装置インターフェイス名を選択します。装置I/F設定にて設定した装置インターフェイス名が表示されます。

### 通知先IPアドレス/ドメイン名

TRAP通知先のIPアドレスもしくはドメイン名を設定します。

### バージョン

SNMPバージョンを選択します。本装置ではV1とV2に対応しています。

### コミュニティー名

SNMPコミュニティー名を設定します。

## TRAP送出設定

### 監視制御状態

監視制御/ログ設定画面の監視制御の設定状態が表示されます。TRAP通知には本表示がonである必要があります。

### TRAP通知

TRAP通知の有効/無効を選択します。

### 設定

”設定”をクリックすると、設定されます。

# TELNET/HTTP/FTP設定



## TELNET設定

### アクセス許可設定

本装置へのTELNETアクセス許可についてTELNET/SSH/両方/禁止から選択します。本設定にてCLIコンソールアクセスの制限が可能です。

### 設定

”設定”をクリックするとTELNETアクセス許可設定が設定されます。

## HTTP設定

### アクセス許可設定

本装置へのHTTPアクセス許可についてHTTP/HTTPS/両方/禁止から選択します。本設定にてWEBコンソールアクセスの制限が可能です。

### 設定

”設定”をクリックするとHTTPアクセス許可設定が設定されます。

## FTPアクセス許可設定

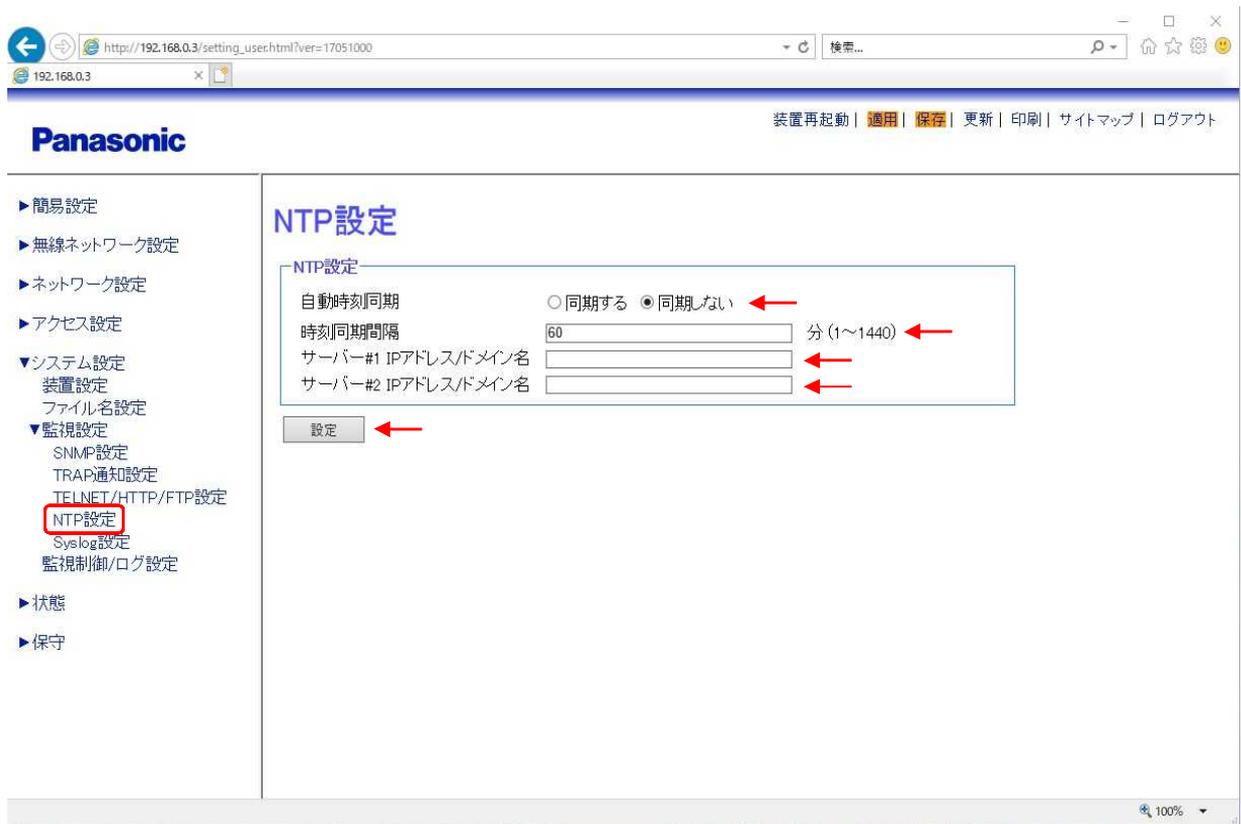
### アクセス許可設定

本装置へのFTPアクセス許可についてFTP/禁止から選択します。本設定にてFTPアクセスの制限が可能です。

### 設定

”設定”をクリックするとFTPアクセス許可設定が設定されます。

# NTP設定



ネットワーク上の指定したタイムサーバ(NTPサーバ)と自装置の時刻を同期させることができる。NTPサーバはお客様にて選択してください。

## NTP設定

### 自動時刻同期

自動時刻同期をするかしないかを設定します。

### 時刻同期間隔

時刻同期間隔を分単位で設定します。本設定間隔にて同期を実施します。

### サーバー#1/2IPアドレス/ドメイン名

NTPサーバーのIPアドレスまたはドメイン名を設定します。プライマリサーバとセカンダリサーバのIPアドレス/ドメイン名の重複設定はできません。

### 設定

”設定”をクリックするとNTP設定が設定されます。

# Syslog設定

Facility設定

イベントログ 16 (0~23) ←

端末管理ログ 18 (0~23) ←

設定 ←

Syslog設定一覧

No.	サーバーIPアドレス/ドメイン名	送信有無		編集
		イベントログ	端末管理ログ	
1		送信する	送信する	編集 ←
2		送信する	送信する	編集
3		送信する	送信する	編集
4		送信する	送信する	編集
5		送信する	送信する	編集
6		送信する	送信する	編集
7		送信する	送信する	編集
8		送信する	送信する	編集
9		送信する	送信する	編集
10		送信する	送信する	編集
11		送信する	送信する	編集
12		送信する	送信する	編集
13		送信する	送信する	編集
14		送信する	送信する	編集
15		送信する	送信する	編集
16		送信する	送信する	編集

Syslogサーバーへ本装置のイベントログおよび端末管理ログを転送することができます。Syslogサーバーは別途準備が必要です。Syslog送信には監視制御/ログ設定画面にて監視制御設定をONにする必要があります。

## Facility設定

### イベントログ

イベントログのファシリティコードを設定します。初期値: 16 (loacl use 0) のままで問題ありません。

### 端末管理ログ

端末管理ログのファシリティコードを設定します。初期値: 18 (loacl use 2) のままで問題ありません。

### 設定

"設定"をクリックするとFacility設定が設定されます。

### 編集

"編集"をクリックするとSyslog編集画面へ遷移します。

# Syslog編集



Syslogサーバーへ本装置のイベントログおよび端末管理ログを転送することができます。Syslogサーバーは別途準備が必要です。

## Syslog番号

編集するSyslog番号を選択します。

## Syslog設定

### サーバーIPアドレス/ドメイン名

SyslogサーバーのIPアドレスまたはドメイン名を設定します。

## 送信有無設定

### イベントログ/端末管理ログ

Syslogサーバーへ転送するログを設定します。チェックをはずすと転送されなくなります。

## 設定

"設定"をクリックするとSyslog編集の設定がされます。

# 監視制御/ログ設定



本装置の監視設定、ログ設定を行います。本装置ではイベントログ、端末管理ログ、アクセスログの取得が可能です。

## 監視制御

### 監視制御

本装置の監視制御のON/OFFの設定を選択します。OFFにするとログ機能、TRAP送信、Syslog送信が全てOFFとなります。  
通常はONでご使用ください。

### 設定

”設定”をクリックすると監視制御設定が設定されます。

## ログ設定

### イベントログ、端末管理ログ、アクセスログ

本装置の各ログ(イベントログ、端末管理ログ、アクセスログ)の取得について設定します。

OFF: ログを取得しません

WRAP: ログが最大件数に達した場合、最古のレコードから上書きします

HALT: ログが最大件数に達した場合、それ以上のログ取得は行いません

### 設定

”設定”をクリックするとログ設定が設定されます。

# 装置情報

← http://192.168.0.3/setting\_user.html?ver=17021401 192.168.0.3

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

## Panasonic

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▶ アクセス設定
- ▶ システム設定
- ▼ 状態
  - 装置情報**
  - 装置警報情報
  - 無線情報
  - 接続端末情報
  - 隣接AP検出
  - 統計情報
- ▶ 保守

### 装置情報

#### ハードウェア情報

製品シリアル番号	A17F007699	←
MACアドレス	08:00:23:fd:19:f5	←
sysObjectID	1.3.6.1.4.1.258.46.5	←

#### ソフトウェア情報

システムバージョン	01.00	←
起動中ファームウェアバージョン	02.01 Rev.0100	←
現在の起動ファームウェア面	1	←
リセット後の起動ファームウェア面	1	←
ファームウェアバージョン (1面)	02.01 Rev.0100	←
ファームウェア作成日時 (1面)	2017/02/22 18:10:41	
ファームウェアバージョン (2面)	02.01 Rev.0100	←
ファームウェア作成日時 (2面)	2017/02/22 18:10:41	

本装置の装置情報が表示されます。

## ハードウェア情報

### 製品シリアル番号

本装置のシリアル番号を表示します。

### MACアドレス

本装置の装置インターフェイスのMACアドレスを表示します。

### sysObjectID

本装置のsysObjectIDを表示します。

## ソフトウェア情報

### システムバージョン

システムバージョンを表示します。

### 起動中のファームウェアバージョン

現在起動しているファームウェアのバージョンを表示します。

### 現在の起動ファームウェア面

現在起動しているファームウェア面を表示します。本装置のファームウェアを2面構成です。

リセット後の起動ファームウェア面  
次回起動時に使用するファームウェア面を表示します。起動面は装置設定画面にて設定が可能です。

ファームウェアバージョン/ファームウェア作成日時 1面/2面  
1面/2面のファームウェアバージョンと作成日時を表示します。

# 装置警報情報



本装置の警報情報を表示します

## 警報情報

### 設定情報初期化

不揮発メモリに保存された設定情報が完全に破損し、全ての設定が失われたことを示します。

本装置の設定情報は2面構成となっており、2面とも破損していることを意味します。故障の可能性が高い状況です。

### イーサネットPHYアクセス異常

イーサネットPHYのハードウェア故障を示します。修理が必要です。

### 無線デバイス異常

無線デバイスのハードウェア故障を示します。

### イーサネットデバイス異常

イーサネットデバイスのハードウェア故障を示します。

### 設定情報異常

不揮発メモリに保存された設定情報の片面が破損しているが、設定は失われておらず正常動作していることを示します。

設定保存中に電源をOFFした場合に発生しますが、それ以外の場合は故障の可能性がります。

#### ファームウェアサムチェック異常

起動後にACTLEDが赤点灯します。2面の内どちらかの面のファームウェアが破損しています。ファームウェア書き込みを行ってください。書き込みをしても復旧しない場合はハードウェア故障となります。

本装置のファームウェアは2面構成なので、1面が破損してももう1面で動作は可能です(但し、アラームは発生し続けます)

#### VPN接続不良

VPN設定時にVPNが切断されると本警報が発生し、ACTLEDが赤点灯します。本装置およびVPNルータ等外部装置の設定を確認してください

#### レーダー検出停波 (IF2)

5GHz帯にて気象レーダー等のレーダーを検出し、切替先チャンネルがなく5GHz帯が停波したこと示しています。切替先チャンネルを確保できるよう設定の見直しをしてください。例として最大周波数帯域幅を小さくする(40MHz → 20MHz)ことでチャンネル数を確保できます。

ハードウェア故障は修理が必要です。修理に関しましては購入先へお問い合わせください

# 無線情報

無線情報

無線インターフェイス情報

2.4GHz帯

使用チャンネル番号	1	←
最大周波数帯域幅	20 MHz	←
チャンネル利用率	8 %	←
ノイズレベル	-95 dBm	←
出力レベル	18 dBm	←

5GHz帯

使用チャンネル番号	36+	←
最大周波数帯域幅	80 MHz	←
チャンネル利用率	4 %	←
ノイズレベル	-95 dBm	←
出力レベル	17 dBm	←

無線情報一覧 ←

No.	2.4GHz帯 動作	2.4GHz帯 BSSID	5GHz帯 動作	5GHz帯 BSSID	SSID
1	有効	08:00:23:fd:19:f6	有効	08:00:23:fd:19:f7	2.4G_test
2	無効	—	無効	—	
3	無効	—	無効	—	
4	無効	—	無効	—	
5	無効	—	無効	—	
6	無効	—	無効	—	
7	無効	—	無効	—	
8	無効	—	無効	—	
9	有効	0a:00:23:fd:19:f6	有効	0a:00:23:fd:19:f7	5G_test
10	無効	—	無効	—	
11	無効	—	無効	—	
12	無効	—	無効	—	
13	無効	—	無効	—	
14	無効	—	無効	—	
15	無効	—	無効	—	
16	無効	—	無効	—	

現在の無線状態(2.4GHz、5GHz)を表示します。

無線インターフェイス情報

2.4GHz帯/5GHz帯

使用チャンネル番号

現在の使用チャンネルを表示します。

最大周波数帯域幅

現在の最大周波数帯域幅を表示します。

#### チャンネル利用率

自装置および周辺APが、時間割合で現在のチャンネルをどの程度使用中か表示します。

#### ノイズレベル

現在の無線の受信ノイズレベルを表示します。

#### 出力レベル

現在の送信出力レベルを表示します。

#### 無線情報一覧

SSID番号ごとの無線出力状態(有効/無効、SSID名等)を表示します。

# 接続端末情報

検索条件設定

端末MACアドレス(?)

表示条件設定

並び替え

SSID名

表示

端末一覧

MACアドレス	IPアドレス	SSID名	接続時刻	無線モード	接続端末数: 1台
88:b1:11:56:ca:b6	—	test2.4G	2018/08/23 15:49:51	11a/n/ac	詳細 切断

本装置に接続している無線端末の情報を表示します。

## 検索条件設定

### 端末MACアドレス

端末のMACアドレスを指定して端末情報を表示することができます。条件を指定しない場合は\*を入力してください

## 表示条件設定

### 並び替え

並び替えの表示条件(SSID名/接続時刻/無線モード)を指定して端末情報を表示することができます。

### 表示

”表示”をクリックすると検索条件設定、表示条件設定に従って本装置に接続している端末の一覧が表示されます。

### 詳細

”詳細”をクリックすると接続端末詳細情報画面が表示されます。

### 切断

”切断”をクリックすると端末を切断します。

# 接続端末情報

192.168.0.3

http://192.168.0.3/setting\_user.html?ver=17051000

装置再起動 | 適用 | **保存** | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

## Panasonic

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▶ アクセス設定
- ▶ システム設定
- ▼ 状態
  - 装置情報
  - 装置警報情報
  - 無線情報
  - 接続端末情報**
  - 隣接AP検出
  - 統計情報
- ▶ 保守

### 接続端末詳細情報

#### 端末情報

端末MACアドレス	88:b1:11:56:ca:b6
端末IPアドレス	169.254.30.202

#### 接続情報

SSID名	SSID01
SSID	test
BSSID	08:00:23:fd:01:49
接続時刻	2001/01/01 00:30:30

#### 無線情報

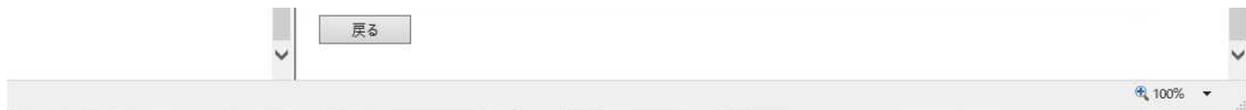
RSSI値	-42 dBm
送信データレート	0 Mbps
受信データレート	866 Mbps
送信パケット数	1 パケット
受信パケット数	174 パケット

#### アソシエーション状態

無線モード	11a/n/ac
AssociationID	1
ショートスロットタイム対応状況	ショート
ショートプリアンブル対応状況	ロング
802.11認証アルゴリズムの種別	オープンシステム
リッスン間隔	250
データレート	6M/9M/12M/18M/24M/36M/48M/54M
WMM状態	有効
U-APSD情報 (Vo/Vi/Be/Bk)	レガシー-PS/レガシー-PS/レガシー-PS/レガシー-PS
U-APSD情報 (最大送信数)	ALL
LDPC (11n)	有効
LDPC (11ac)	有効
最大動作周波数チャネル幅	80 MHz
SM Power Save 状態	無効
ショートガードインターバル (20MHz)	400 ns
ショートガードインターバル (40MHz)	400 ns
ショートガードインターバル (80MHz)	400 ns
最大A-MPDU長	1048575 バイト
最小MPDU間隔	4 us
MCS(11n)	(MCS0) 1111111111111111 (MCS15)
最大伝送データレート (11n)	300 Mbps
MCS1ストリーム (11ac)	0-9
MCS2ストリーム (11ac)	0-9
最大伝送データレート (11ac)	866 Mbps
STBC送信対応状況 (11n)	有効
STBC受信対応状況 (11n)	1 ストリーム
STBC送信対応状況 (11ac)	有効
STBC受信対応状況 (11ac)	1 ストリーム

#### 認証状態

EAP認証種別	--
ユーザー名	--



接続端末の詳細情報を表示します。

#### 端末情報

接続している端末の情報を表示します。

#### 接続情報

端末との接続情報を表示します。

#### 無線情報

端末との無線通信のAP側の無線情報を表示します。

#### アソシエーション状態

端末-AP間のアソシエーション情報を表示します。

#### 認証状態

802.1X認証時の認証情報を表示します。

# 隣接AP検出

隣接AP検出

全チャンネルスキャン

モニタリング結果一覧

BSSID	SSID	RSSI値 (dBm)	チャンネル番号	周波数幅	無線モード
08:00:23:3d:33:83		-56	1	20/20	11b/g
08:00:23:3d:33:e3		-53	1	20/20	11b/g
08:00:23:3d:34:63		-66	1	20/20	11b/g
74:03:bd:ec:03:ac	Buffalo-G-03AB	-61	1	20/20	11b/g/n
08:00:23:3d:23:24	Lanwav	-78	1	20/20	11b/g/n
08:00:23:3d:23:2e		-77	1	20/20	11b/g/n
08:00:23:3d:2d:c4	Lanwav	-61	1	20/20	11b/g/n
50:01:d9:28:66:d0	602HMb-2866CF	-67	1	20/40	11b/g/n
d0:ff:98:52:49:d8	W04_D0FF985249D8	-95	2	20/40	11b/g/n
70:4f:57:10:6e:fc	TP-Link 6EFC	-95	2+	40/40	11b/g/n
00:1d:73:91:d9:63	001D7391D963	-45	8-	40/40	11b/g/n
08:00:23:3d:34:70		-70	36	20/20	11a/n
08:00:23:3d:34:71		-70	36	20/20	11a/n
08:00:23:3d:34:72		-70	36	20/20	11a

本装置周辺の他のアクセスポイントのモニタリング結果を表示します。本画面を開くとスキャンを行い、結果を表示します。

## 全チャンネルスキャン

”実行”をクリックするとスキャンを実施します。

## BSSID

周辺AP出力のBSSIDを表示します。

## SSID

周辺AP出力のSSIDを表示します。SSIDステルスの場合は空白となります。

## RSSI値

周辺AP出力の本装置での受信レベルを表示します。

## チャンネル番号

周辺AP出力の使用チャンネルを表示します。

## 周波数幅

周辺AP出力の使用帯域幅を表示します。

## 無線モード

周辺AP出力の無線モードを表示します。

# 統計情報

The screenshot shows the 'Statistics' page of a Panasonic router. The page is divided into three main sections: Ethernet, 2.4GHz band, and 5GHz band. Each section contains two sub-sections: 'Transmission' (送信) and 'Reception' (受信). The data is presented in a table format with columns for the category, the count, and the unit (バケット). Red arrows point to the right side of each section's table.

帯域	送信	受信
イーサネット	送信 エラー 破棄 オーバーラン キャリア 衝突	受信 エラー 破棄 オーバーラン レンダスオーバー
	26347 0 0 0 0 0	28441 0 21 0 0
2.4GHz帯	ユニキャスト マルチ/ブロードキャスト ビーコン マネジメント エラー 破棄	ユニキャスト マルチ/ブロードキャスト マネジメント PHYエラー CRCエラー 復号化エラー その他エラー
	0 0 1858 2549 0 0	0 0 10890 524 320 0 0
5GHz帯	ユニキャスト マルチ/ブロードキャスト ビーコン マネジメント エラー 破棄	ユニキャスト マルチ/ブロードキャスト マネジメント PHYエラー CRCエラー 復号化エラー その他エラー
	0 0 1699 1956 2 0	0 0 11908 4370 665 0 0

イーサネット  
イーサネットの送信/受信パケットの統計情報を表示します。

2.4GHz帯  
無線(2.4GHz帯)の送信/受信パケットの統計情報を表示します。

5GHz帯  
無線(5GHz帯)の送信/受信パケットの統計情報を表示します。

# ユーザー設定

ユーザー設定

ユーザー名変更

ユーザー種別  管理ユーザー  一般ユーザー

ユーザー名  (1~16文字)

設定

パスワード変更

ユーザー種別  管理ユーザー  一般ユーザー

現在のパスワード

新しいパスワード  (0~16文字)

新しいパスワード(確認用)

設定

本装置へのログインに必要なアカウント情報(ユーザー名、パスワード)の設定を行います。初期値は管理ユーザーはユーザー名、パスワード共にroot、一般ユーザーはユーザー名、パスワード共にuserとなっています。セキュリティ上、ユーザー名およびパスワードは初期値より変更するようお願いいたします。ユーザー名およびパスワードを変更する場合は管理ユーザーでログインする必要があります。

## ユーザー名変更

### ユーザー種別

ユーザー種別を管理ユーザー/一般ユーザーから選択します。

### ユーザー名

ユーザー名を入力します(1~16文字)。

### 設定

”設定”をクリックするとユーザー名が設定されます。

## パスワード変更

### ユーザー種別

ユーザー種別を管理ユーザー/一般ユーザーから選択します。

### 現在のパスワード

現在のパスワードを入力します。

### 新しいパスワード

変更する新しいパスワードを入力します

新しいパスワード(確認用)  
変更する新しいパスワードを入力します。

設定  
”設定”をクリックするとパスワードが設定されます。

管理ユーザーのアカウント情報は厳重管理願います。管理ユーザーのアカウント情報がわからなくなった場合、ログインによる再設定ができなくなります。INITスイッチにより初期状態に戻すことは可能です。

# 初期化



## 設定初期化

### 初期化

”初期化”をクリックすると”設定を初期化します。よろしいですか？”と表示されます。”OK”をクリックすると設定が初期化され、装置は再起動します。

## ログ初期化

### 各ログ初期化

イベントログ、端末管理ログ、アクセスログ

初期化を行うログを選択(チェック)します。チェックしたログ全てが初期化されます。

### 初期化

”初期化”をクリックすると”選択したログを初期化します。よろしいですか？”と表示され、”OK”をクリックすると でチェックしたログが全て消去されます。

# 自動ダウンロード



本装置のファームウェアおよび設定データを自動的にダウンロードする機能の設定を行います。あらかじめ指定のサーバーに自動ダウンロード情報(ファームウェア/設定データの2種類)とファームウェアおよび設定データの準備が必要です。

ファームウェア、設定データ、自動ダウンロードファームウェア情報ファイル名および設定データ情報ファイル名は”ファイル名設定”画面に設定しているファイル名として指定サーバーへ保存しておく

**自動ダウンロード状態**  
自動ダウンロードの状態を表示します。

**自動ダウンロード設定**  
**自動ダウンロード動作**

ファームウェア動作設定

ファームウェア自動ダウンロードの動作を設定します。

無効:自動ダウンロードしない

ダウンロードのみ:自動ダウンロードを行う。次回起動時にダウンロードしたファームウェアで起動します

ダウンロードとリセット:自動ダウンロードを行い、完了後、再起動を行います

自動ダウンロードは本装置の起動面のファームウェアが、自動ダウンロード情報のファームウェアバージョンと一致しない場合に行われます

### 設定データ動作設定

設定データ自動ダウンロードの動作を設定します。

無効:自動ダウンロードしない

有効:自動ダウンロードを行う

自動ダウンロードは自動ダウンロード情報内の更新情報に差分があり、装置起動面のファームウェアバージョンで有効な設定の場合に行われます。

### 動作契機設定

自動ダウンロードの動作契機の設定をします。

起動時:装置起動時に自動ダウンロードを実行する

定時刻:指定時刻に自動ダウンロードを実行する

### 時刻設定

動作契機設定が”定時刻”時の時刻(0~23時)を設定します。指定された時刻から1時間以内に行われま

ず。

### FTP設定

#### セキュリティ種別

自動ダウンロードのFTPセキュリティ種別をFTP/SFTPから選択します。

#### IPアドレス/ドメイン名

自動ダウンロードの各ファイルを保存しているFTPサーバーのIPアドレスもしくはドメイン名を設定します。

#### パス設定

自動ダウンロードファイルが保存されているサーバーのフォルダを指定します。

#### ユーザー名

FTPのユーザー名を設定します。

#### パスワード

FTPのパスワードを設定します。

#### 設定

”設定”をクリックすると設定されます。

補足(自動ダウンロード情報ファイルフォーマット)

#### ファームウェア情報ファイルフォーマット

```
autodownload config version XXXXXXXX<
autodownload config updateside YYYYYYYY<
autodownload config filename ZZZZZZZZ<
```

XXXXXXXX:バージョン番号 00000000-FFFFFFFF (上位2byte:バージョン 下位2byte:リビジョン)

YYYYYYYY:更新面 運用面(operation)/バックアップ面(backup)/両面(both)

ZZZZZZZZ:自動ダウンロード用ファームウェアファイル名(32文字)

#### 設定データ情報ファイルフォーマット

```
autodownload config updateinfo AAAAAAAA<
autodownload config versionBBBBBBBB<
autodownload config filenameCCCCCCCC<
```

AAAAAAA:更新情報(最大32文字) (任意:前回と差分がある場合のみ設定データのダウンロードを行う)

BBBBBBBB:バージョン番号 00000000-FFFFFFFF (上位2byte:バージョン 下位2byte:リビジョン)

CCCCCCC:自動ダウンロード用設定データファイル名(32文字)

# イベントログ表示

Panasonic

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

イベントログ

ログ情報表示

ログ表示ブロック番号 (?) (1~10, 未入力の場合は最新ログ表示)

ログ表示

0000004196	2001/01/01 00:00:31	Information	System Wakeup
0000013187	2001/01/01 00:02:01	Notice	ETH IF1 Link Up
0000027317	2001/01/01 00:04:22	Information	WLAN IF1 Operating 1ch 20MHz
0000027418	2001/01/01 00:04:23	Information	WLAN IF2 Operating 36ch+ 80MHz
0000034350	2001/01/01 00:05:33	Information	WLAN IF1 Standby
0000036443	2001/01/01 00:05:54	Information	WLAN IF2 Standby
0000039715	2001/01/01 00:06:26	Information	WLAN IF1 Operating 1ch 20MHz
0000041617	2001/01/01 00:06:45	Information	WLAN IF2 Operating 36ch+ 80MHz
0000004230	2001/01/01 00:00:31	Information	System Wakeup
0000013234	2001/01/01 00:02:01	Notice	ETH IF1 Link Up
0000022869	2001/01/01 00:03:38	Warning	ETH IF1 Link Down
0000004232	2001/01/01 00:00:31	Information	System Wakeup
0000013186	2001/01/01 00:02:01	Notice	ETH IF1 Link Up
0000277838	2001/01/01 00:46:07	Warning	ETH IF1 Link Down
0000004232	2001/01/01 03:02:12	Information	System Wakeup
0000013190	2001/01/01 03:03:42	Notice	ETH IF1 Link Up
0000004228	2001/01/01 03:02:12	Information	System Wakeup
0000016607	2001/01/01 03:04:16	Notice	ETH IF1 Link Up
0000016927	2001/01/01 03:04:19	Information	WLAN IF1 Operating 1ch 20MHz
0000017033	2001/01/01 03:04:20	Information	WLAN IF2 Operating 36ch+ 80MHz
0000004226	2001/01/01 03:02:12	Information	System Wakeup
0000016461	2001/01/01 03:04:14	Notice	ETH IF1 Link Up
0000016779	2001/01/01 03:04:18	Information	WLAN IF1 Operating 1ch 20MHz
0000016879	2001/01/01 03:04:19	Information	WLAN IF2 Operating 36ch+ 80MHz
0000004239	2001/01/01 03:02:12	Information	System Wakeup

**ログ表示ブロック番号**  
表示したいログのブロック番号を指定します。

**ログ表示**  
”ログ表示”をクリックすると指定のログを表示します。

# 端末管理ログ表示

http://192.168.0.3/setting\_userhtml?ver=17021401

192.168.0.3

装置再起動 | 適用 | 保存 | 更新 | 印刷 | サイトマップ | ログアウト

## Panasonic

- ▶ 簡易設定
- ▶ 無線ネットワーク設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▶ アクセス設定
- ▶ システム設定
- ▶ 状態
- ▼ 保守
  - ユーザー設定
  - 初期化
  - 自動ダウンロード
  - ▼ ログ表示
    - イベントログ表示
    - 端末管理ログ表示**
    - アクセスログ表示
    - マネージメント設定

### 端末管理ログ

ログ情報表示

ログ表示ブロック番号(?)  (1~10、未入力の場合は最新ログ表示) ←

ログ表示 ←

0000507288	2018/03/23	15:48:51	Stmng	Int	Event	ST	Connect	OK	STA:88-B1-11-5
0000507688	2018/03/23	15:48:55	Stmng	Int	Event	ST	Disconnect	Reason	STA:88-
0000507715	2018/03/23	15:48:55	Stmng	Int	Event	ST	Connect	OK	STA:88-B1-11-5
0000508116	2018/03/23	15:48:59	Stmng	Int	Event	ST	Disconnect	Reason	STA:88-
0000508143	2018/03/23	15:48:59	Stmng	Int	Event	ST	Connect	OK	STA:88-B1-11-5
0000508544	2018/03/23	15:49:03	Stmng	Int	Event	ST	Disconnect	Reason	STA:88-
0000508572	2018/03/23	15:49:03	Stmng	Int	Event	ST	Connect	OK	STA:88-B1-11-5
0000508972	2018/03/23	15:49:07	Stmng	Int	Event	ST	Disconnect	Reason	STA:88-
0000513189	2018/03/23	15:49:50	Stmng	Int	Event	ST	Connect	OK	STA:88-B1-11-5
0000527389	2018/03/23	15:52:12	Stmng	Int	Event	ST	Disconnect	Reason	STA:88-

javascript:menuJump('cgi-bin/controllog.lua','content')

100%

**ログ表示ブロック番号**  
表示したいログのブロック番号を指定します。

**ログ表示**  
”ログ表示”をクリックすると指定のログを表示します。

# アクセスログ表示



The screenshot shows a web browser window with the URL `http://192.168.0.3/setting_user.html?ver=17051000`. The page title is "Panasonic" and it includes navigation links like "装置再起動", "適用", "保存", "更新", "印刷", "サイトマップ", and "ログアウト". A left sidebar contains a menu with categories like "簡易設定", "無線ネットワーク設定", "ネットワーク設定", "アクセス設定", "システム設定", "状態", "保守", and "ログ表示". The "ログ表示" menu is expanded, and "アクセスログ表示" is highlighted with a red box. The main content area is titled "アクセスログ" and displays a table of access logs.

ID	日時	接続種別	接続先IP	接続先ポート	接続先ユーザ名
0002064002	2001/01/01 05:43:49	FTP	192.168.0.101:51675		Exit Root User
0002065242	2001/01/01 05:44:01	FTP	192.168.0.101:52041		Login Root User
0002068872	2001/01/01 05:44:38	FTP	192.168.0.101:52041		Exit Root User

本装置へのアクセスに関するログを表示します。

# マネージメント設定



## 監視マネージャIPアドレス

弊社統合監視マネージャのIPアドレスを指定します。本装置は現在のIPアドレスを監視マネージャに定期的に通知し、監視マネージャは通知を元に装置のIPアドレスを更新します。本装置を遠隔監視するためのIPアドレスが固定されていない場合に設定して下さい。

## コンフィグ必要有無設定

本装置がIPアドレスを通知する際、同時に通知するコンフィグ要否の内容を設定します。有効に設定されている場合、監視マネージャは本装置に対してコンフィグ設定を自動的に行います。

監視マネージャから自動設定するコンフィグで本設定を”不要”にする必要がありますので、コンフィグの最後に、”management config status disabled”を1行追加して下さい。

## 設定

”設定”をクリックすると設定されます。